



和歌會式法

全

~ 4  
8172

和歌會式法



同係之全八別之方下山口部抄如之介人

一首懷仗木式書格 表書在

二首三首同 日本

女房一首懷仗書格 活書在

同二首三首同 日本

聖詠集 同二通 日本

咏卷三首五首十首 日本

短冊四首是辨中書一通

空是仰觀中書六通

石之介鳥丸前内府公其出黃門 仁傳瑞

或重寶物故山至次年入漢在傳自松山集

< 2012-79 >



此目錄之分八別本アリ此四部抄本ノ一也

一首懷紙本式書格 裏書在

二首之首同 同前

女房一首懷紙書格 流書在

同二首之首同 同前

望詠草同二通 同前

詠草之首五首十首 同

短冊同 重豊御子書一通

重豊御親筆子書六通

右之分鳥丸前内府公芝山黃門江傳授之  
武重豊御抄山若次第入流如傳自松山再傳

之書字々亦中各字豊郷親也

懐紙文卷之五

一頁計成木左書紙

二頁計成木左書紙

三頁計成木左書紙

四頁計成木左書紙

五頁計成木左書紙

六頁計成木左書紙

七頁計成木左書紙

八頁計成木左書紙

懐紙文卷之五

たは袖にいれて會席におもせ

文巻よまを袖におもせ君輩下極まりをさるり先

文巻よまは時の懐紙をたのまは袖にいれてお

出してさやに記して見お心地としてさるり先

て懐紙よまをさるり先記して指二冊をさるり先

おまけをさるり先おまけ文巻をさるり先勝をたて

おまけをさるり先おまけ懐紙をたのまは右

おまけをさるり先おまけ懐紙のまを裁き了る

して文巻よまをさるり先時貴人れ方へ法をさ

さぬやうに左ちよほるまゆぐし又一股せーい  
きんくなどには我<sup>それ</sup>やとわたり変かきやにま  
の利それ我席ぶどまてれ変之亦女房杯の  
懐身これりらごりたをうぬるや上下も  
かほらむ利又一股しきる見ぬは又ふ  
きまのふんたもそれ人してなるあ  
亦懐楽と人教よおふまこれ創式もや  
その懐紙も文巻下下の獨り金半あり  
うねいも身乃卑下ーるまこは高なる  
至て面白儀之亦文巻の下に置んまきいあり

む自然のゆへに紙に傳る  
懐紙の時高をるめえ先懐紙を文巻に  
その高をれ影をさ<sup>探</sup>はれり影と  
いとぬ物ふ利あがふとりよなり亦たい  
たれよとてさるりの亦何ぞぬく右れ  
あくもとるり影をを硯のゆへに中ふ入  
まふ利打屋の影のあは方を中くおひ  
之作者れ下とふくは折るり又ふと書  
きふ時し作者上は川は成る利冷泉  
よい家を書きふ時作者よあゆへ亦懐紙

もくろくしと巻くさ紙も折ぎて又巻よ  
おかしきとゆふ利亦野をとりぬる左のまに  
てとり右のまもとりかへてゆるとる一筆に  
くをゆるも亦字を書て記れあといま筆事  
次平不同を利こもるの時宜ね記也  
懐紙を徳紙のま 懐紙紙本式引合ナリ枚原ニテモ不若更ニ非  
畧美ノ外様ノ會ニモ杉原ニテ仕ナリ  
御製のハ大徳だむ 檀紙 紙 ととのまも ねざる  
もかつ其外抄改家園白杯も大徳だむ  
よ徳らりもやうれいまをけをがはめりも  
もやそのハ細言ふぞれ懐紙ハ小徳だむし

神樂隨筆云  
中古ハ懐紙ノ  
認ヤウモトナ  
夫タルカ三行  
二空ノ書素  
然自筆ニテ  
書テ二条殿  
被進候ガ  
昭實ノ記  
ノ中ニアリ  
詩哥懐紙  
始紙ノ端ヨリ  
題ノ間自己  
手ヲ覆テソ  
ノ間ヲマキテ  
よ徳らりもいこれいふけもほめねぬる  
もるり亦武家流杯を長一尺一寸紙袖の紙  
法外も大略はいてる日前作  
懐紙の書やうなす

一首は時ハとり字はるる 字配ハま  
一川ハバド 日十九 中ハ九 日十九 下ハ九 日十九 ハド 日十九 おくハド  
小カクハ川字ハふむしてハ一ハドハ人  
カクハ亦徳候ハ匙をわきハ紙をふり  
ハ季日を書入るハ人亦人ハどの命被授  
時ハこの時受領ももはハなともハ

題ヲカク法  
ナリ阿野公  
業ノ傳也

姓は多きてして名業をかくごとく倭令

春日岡部野花苗人相歌

左邊尉源長忠

尊俊抄云懐

紙天子御前用

ハ大高高一尺

守余大臣公卿

高ワ一尺二寸四分

又小高檀紙一尺

二寸ルヲ公卿

殿上人並普通ニ

取用アリ武家

ハ高サ一尺三四分

奉書紙ヲ用

平人ハ奉書

ヲ用ユベシ

あはれ川花苗や

うたへしとてあはれ

かす野のさくら花の

ません

此の句はあはれとてや亦端七ト中ハ字ニりめ七ト

まじりや亦同單れ余のまじりては作

者のうまやしも書及や

詠初春松和歌

威重

大形はゆんふくふ利亦作者れまこと官と名  
業をよりしうふて姓をばれなくあり名業は  
しにてハ作者の所淋し記候よちや姓取  
くし第一思ふは是亦受候として後と

五首懐紙紙  
ニ枚ツヤテ書  
ナリ三首メ  
二行バカリ書カ  
ケ子バヨクアマル  
クハ哥一首書  
ホドアマリタル  
ヨシ七首モ紙  
ニ枚ナリソレハ  
興アミルベカラズ

手と及ん受領のふよ前の子とくや二禮貴  
紙を利  
三首懐紙の事一奇是二行七字と二首はめふお  
かじ題端作し去りし中自然の事いんを  
稀るを但道の達者亦は一版くきる老人  
りとい被推有り例式此人ハ世々給有り

又首七首此懐紙の事一奇是二行七字也  
川合式枚紙とくく又首七首其目也  
十首此懐紙の事一自然推分あふ不類も  
細く書く是も奇は二行七ト之川合之枚紙也

十首ハ三枚ツヤ  
ニ十首マデハ  
哥二行七字可  
然十五首ヨリ  
紙枚サダメス  
書次第ニイカ  
ホドモツギテカ  
クナリ哥二行  
ニカクハ百首  
マデモ同事  
能書方ニハツ  
キメノ前二行  
百七首同前  
口傳アリ  
鳥井殿方ニハ  
如紙前ノ紙ニ  
一行アリ四首メ  
ノ哥ノ事  
能書方トハ  
世尊寺清水  
谷兩家  
契沖本云  
懐紙端作ノ  
事添テ日ヲ  
カキ姓ナノリヲ

甥似たり法中ハいもれ人あてもあれ不撰  
夫傷ん信馬衣るも甥書よ季此日也  
書く亦俗方ハ貴人ノ涉人教せり亦懐  
紙汁をいもるた下るハ者季日端作  
と云入

春日詠二首和奇

如紙

季日をうぶ身てハ受領姓自元冬家了業也  
官途とてあれ之鳥帽子衣ハ不也  
な利地を姓も冬家とて書ク亦是も人



カクダ又詠  
三首和歌ト  
ガリカケハ  
官ト名ヲ書  
テ姓ヲカス  
無官ハ名ガカ  
リ

よて名業ささげしはりしれどもさうぶら  
かくばたはし時ハ姓ももろいぶらふも  
乃云のしはる季れ日かくがらみありは  
をりかくる利但名業ぼりありてさび  
けしはる官遠よても更けよても書入し姓を  
ハ不半姓をかくもは貴く敬成あり  
帝取れ人の世千代丸と姓れドはうし  
貴祝くも外様ありまのドをかくる  
一はさししる人の子よてあはれをまじり  
こもろいぬ平侍杯れまもかくるうぶら

懐紙閉ヤウ  
重タル紙奥  
ヲトツル也紙ハ  
引合ヲ短冊ノ  
廣サニ切テ四  
ニタム也短冊  
ニテモ閉ル其  
時ハウラ西ニ  
シ雲アルカラ  
ウラス也懐  
紙ヲニツニ折  
テヨリヨリ  
一寸ハカリシケ  
テハ小カニテ穴  
ヲアケテ懐  
紙ノ裏ノ方  
ヨリタミタル  
紙ヲ面ハ通シテニ  
ハスヒ結ナリ  
結紙ノ二方ヲ行

懐紙を折ふやしはる引合を短冊にひろき  
にまじりてうらむのこしは折しはる  
こ中よこしはる折合するありまらばはる  
まらるこしはる行ふかにまらばはる  
わかの中さき寸ふらり結目より下ハ二寸ハ  
懐紙のたかく紙で閉あり  
表書のより書仲の懐紙のこしはる  
乃方よたかく小かくるあり  
天文亦まの二月亦八日會  
或和奇會

ワニスル也カタワナ  
ラハナスナリ  
行ワナノ長サ  
一寸許下ノ  
方ナリタル  
用紙ノサキヲ  
一寸許三切ナリ  
懐紙ノ用メ文  
字ニカ、リテモ  
クルシカラズ

亦月ハ杯々會の時ハ

天文亦多之月カハ月次會ノ次亦不同

如新

此表書亦用半々題者此役之余人ハ之得之

神社法樂ハ表書の中

任吉社

天文亦多印月二旨 法樂

如以中折ヲ同ホク

同書作ナリ

本式懐紙ハ法  
中ハ法中ト別ニ  
官位次第三重  
ナリサヤウニナキ  
時ハヤウニ位不  
同ナル時ハ次亦不  
同ト書ナリ

秋日同侍 日吉社宝前詠

之首和歌

此詠作ハ俗にも又同之奇ハ二行七字

如也いづも此神社中ハ拙所也

短冊ハ題のりも奇ハ下句より此ハ

カトハ題也奇ハ字又同前也

女房ハ此奇ハ作者也かぬとのあり題の

時ハ題乃明也奇ハ下句をカト

短冊ハ一カキのりも

短冊とて此ハ題ハ文字カからぬ也

或説云  
天子短冊  
幅二寸長サ  
紙ノミ  
三公同上  
公卿幅二寸  
九分長同  
地下幅二寸  
一説尊卑通  
用幅二寸長一  
尺二寸三分  
短冊トツル水  
引白赤カキ  
分ノナラハ紅  
ノ方ヲ面ニ白  
ラウラハ通ス  
ベシ紫ノ色ノ  
水引ハハヒノ  
色トテ五色  
ヨリヲモテニ  
アスベシ

契沖本云  
花ニ短冊結  
コ付テ人ニ

マイラスル時  
何ニテモアレ

枝ニ結ビツケテ  
草花ナドモ

同前但草  
花ニヨリテ下

枝モハモナキ  
花ナドハ花ノ

付タル本ニ結  
付テマイラス

ルナリ  
花イカリノ

時モ又短冊  
アル時モ貴

人ニ奉ル時直  
ニ不可有進

上ナリ取ルマ  
シラス御方へ

サシ出シテ可  
然云々

ひて穴をあけて、水川をせきだるに

法目より下、指ニ川解置て、法目より上ハ指

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

方と、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

人ノ方(贈ル短  
冊)ニツキ、左  
テ左(結ブ也  
返事ノ時右  
結ブトナリ  
短冊ヲ折ラズ  
シテ、其マ、ナカ  
シテ、三ツニタ  
ミテ、花ノ枝ナ  
ドニ結付ルハ  
是ハ冷泉家  
ノ衆メサレト  
ナリ

名我がく、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

天文亦幸卯月二日

兼日、水川母とく、水川八十首の時ハ一節

早卒 早ク福人時カヤウニ書ス  
早卒 是ハナラ早速ノ一ニ書ス  
早卒 是ハヨシタル時ノ表書也  
早卒 是ハナラ早速ノ一ニ書ス  
早卒 是ハヨシタル時ノ表書也

ニテハナシ又見  
ナレヌ又トテ  
不審モスミ  
キナリ

三中日傳第四

乙百首和歌

封ニ様切別紙

其端ヲカ分ち

礼紙ニ籠テ右

カニニ及許老

テ重礼紙端

封ニ封紙下

ヲ廻迫テ可切

ナリ

書名字封

同上礼紙

端ニ封紙ノ

上下ヲ兼テ

普通ノ字ヨ

リハ願カク名

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

也

天文可事卯月二日

これ迄あり

横

短冊花は法はける半短冊の中と二列は

よりそつて内へしきして之列は折てその

木下は枝は法はるる切目ととくるは也

そのまの法はるるは口傳有

花は枝のさしはるるは口傳有

枝のさしはるるは口傳有

不入例式をわとよとる遺

解るるは口傳有

令の席中

短冊包テ人

二遣人時包

様三種アリ

先短冊上カ

タヲ内ハナシ

テ折ナリ杉

原一重ニ包ナリ

上ヲ水引ニテ

結常ノカタハ

一枚ニテモ包ミ

上ヲ結ブナリ

水引ハニスデ

ニテモ一筋ニ

ラモ結フナリ

包様



懐紙と文巻を置時のむろと令の席中(出時)は  
からひしを各くたはれ袖に入ぐたはる  
なりさて文巻のむろと令の席中の袖より

契沖本云、  
 懐紙短冊  
 釘ニカクル  
 事短尺ノ水  
 引ラ懐紙ノ  
 トチメノ結  
 ニメノ下ヲ上  
 ヘトヲシテ  
 カテ懐紙  
 ノウラノユヒ  
 マト水引ト  
 ラツニ釘ニ  
 カクルナリ  
 冷泉家ハ  
 堅ラニツ三折  
 テ又横ヲ四  
 ジニ折テ木  
 草ニ結付  
 ナリ

ゆるりいさそでわの海帯く見心地して拙毫  
 てしんねくしとわ折しけくおる右の子  
 まてあたるをさて又文巻も懐紙とをにね  
 人下着は片く一まゝをわりよふに流氷<sup>三布</sup>  
 くるきる美人の心をもておるるなり  
 同巻たども同前とて懐帯も吾も置終て  
 高座の匙と探之悪別くさひい我か出内  
 くるくるくさくさくくくくくくくくくくく  
 足若勢くふさくくくくくくくくくくくく  
 おるねといふももるるか利短冊を忍人

懐紙置  
 やちく  
 伝アリ

二条家の堅  
 ラニツ三折テ  
 横ヲ三ツ三折  
 テ付也  
 短冊花枝三結  
 付遣又短冊  
 ノ中ヲ折テニ  
 タミテ花ノ  
 枝草花向ニテ  
 モ枝ニツアラ  
 バ中ノ枝ニスヒ  
 付テ遣スベキ  
 草木最下ノ  
 枝ノ先ヲ切  
 テ常ノ如ク  
 短冊ニ丸ヲ  
 アケテ切クル  
 枝ニカケテ折  
 モセズ包モセ  
 不其マ、モ遣  
 事モ有一尺ハ  
 六寸ニ短冊スル

乃方よりおる硯も同前くし硯をわらう者  
 事もあはれ  
 高座の匙探やけりよと腸をりくくくく  
 ろりろくくくくくくくくくくくくくく  
 志ふばくくくくくくくくくくくくく  
 ちたのののののののののののののののの  
 蓋小いれく匙とまじ  
 短冊の匙れ枚濃も人ねは片に十首支首か  
 その首支首その首かくのごくく匙とあも  
 ののりけ付るくは時の匙とまじくたのり

「アリ」本草ニ  
付ヤウ同前  
自然一頁ノ  
美バカリナリ  
平人ハスベカ  
ラズ

方ハ出来次第に「ド」カ硯<sup>のん</sup>カ蓋に挿<sup>て</sup>よりておく

當座此等各出来多しハは硯の蓋より文卷  
此前持向より講師<sup>カ</sup>人ハ出題<sup>ノ</sup>ノ人此役あり  
さて情状よりひろげてかきぬるより上流次  
カより人にかきぬるより下流次カへ此  
方よりあるよりして短策など題<sup>イ</sup>志<sup>イ</sup>し<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>カ  
きゆくもやホカんとたよもいづの次カに  
をだのを布<sup>イ</sup>やま<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>さ<sup>イ</sup>て<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>ひ<sup>イ</sup>い<sup>イ</sup>れ<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>れ  
方とれく「二」折<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>その<sup>イ</sup>人<sup>イ</sup>ハ短冊<sup>イ</sup>を<sup>イ</sup>

ゆゆでして文卷<sup>イ</sup>ぬ<sup>イ</sup>ぐ<sup>イ</sup>か<sup>イ</sup>ぞん<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>こ<sup>イ</sup>り<sup>イ</sup>お<sup>イ</sup>の  
おしく内者<sup>イ</sup>たる<sup>イ</sup>人<sup>イ</sup>よりして<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>あり<sup>イ</sup>「イ」此れ<sup>イ</sup>  
と<sup>イ</sup>か<sup>イ</sup>ぞん<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>方<sup>イ</sup>へ向<sup>イ</sup>り<sup>イ</sup>さて<sup>イ</sup>講師<sup>イ</sup>一<sup>イ</sup>番<sup>イ</sup>り  
お<sup>イ</sup>が<sup>イ</sup>せ<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>た<sup>イ</sup>方<sup>イ</sup>文<sup>イ</sup>卷<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>た<sup>イ</sup>方<sup>イ</sup>よりして<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>あり  
さてその後講師<sup>イ</sup>ハ講師<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>安<sup>イ</sup>名<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>二<sup>イ</sup>名<sup>イ</sup>を  
る<sup>イ</sup>秘<sup>イ</sup>便<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>呼<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>より<sup>イ</sup>さて<sup>イ</sup>講師<sup>イ</sup>二<sup>イ</sup>名<sup>イ</sup>り<sup>イ</sup>不<sup>イ</sup>請<sup>イ</sup>第<sup>イ</sup>  
ま<sup>イ</sup>して<sup>イ</sup>文<sup>イ</sup>卷<sup>イ</sup>れ<sup>イ</sup>む<sup>イ</sup>ひ<sup>イ</sup>少<sup>イ</sup>左<sup>イ</sup>も<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>さて<sup>イ</sup>発<sup>イ</sup>存<sup>イ</sup>文<sup>イ</sup>  
巻<sup>イ</sup>法<sup>イ</sup>に<sup>イ</sup>協<sup>イ</sup>え<sup>イ</sup>す<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>ま<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>形<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>の<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>ら<sup>イ</sup>懸<sup>イ</sup>れ<sup>イ</sup>人  
校<sup>イ</sup>文<sup>イ</sup>卷<sup>イ</sup>れ<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>「イ」ま<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>み<sup>イ</sup>あ<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>其<sup>イ</sup>は<sup>イ</sup>講師<sup>イ</sup>  
く<sup>イ</sup>い<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>た<sup>イ</sup>ん<sup>イ</sup>く<sup>イ</sup>と<sup>イ</sup>紙<sup>イ</sup>文<sup>イ</sup>卷<sup>イ</sup>れ<sup>イ</sup>る<sup>イ</sup>より

左の如く左の如く流石の藤丸殿もさう  
 ありその如く短冊をば文巻に下しに左殿を  
 く依懐紙と下し一宛をりけりて文巻に  
 主と地を巻物あり下箱を一つと先づ  
 ありたり如く後講師講師の氣をさし  
 校を極まりて講師の如く先づ  
 しみとて名業をとりて流石に  
 二の如くさしむや誦あぐれむや  
 びりりりり講師の如く  
 同よりりりり但祭戸の日が

しかれど講師の如く  
 講むことし作れしもの  
 詠之首  
 和奇  
 詠を  
 和奇

神樂隨筆云  
 大僧正某律  
 師某ナド懐紙  
 二書テアルヲ其  
 人ヲ貴フトキハ  
 某大僧正某  
 律師ト名ヲ  
 先ハ官ヲ後ニ  
 ヲミ上ルナリ俗  
 人ハ官實名法  
 中ハ實員名官  
 トヨミ上ルナリ

上箱ノハヨミセタマヘル  
 乃懐紙と下し不流石なり  
 律師ト名ヲ  
 折りけりて

是僧俗ノ相  
違之日野弘  
資卿ノ話ニ家  
ノ會ニテ等  
輩ノ衆ナレ主  
盟ト云人ノ品  
云其人ヲ執シ  
テ講師ノヨミ  
上ニ大納言殿  
弘又貝トヨコ上  
ラ殿ノ字ヲ  
ツケテヨムガ故  
実ナリト云

の主人中あ小うぬ代一どふあてくありさて講師  
 是れよみでさて作者とよむハ奇とよむ  
 ありこれハ巻紙ハかよりとどりてせよせ  
 ありよみあぐねを講師一まいづ又巻紙上  
 我もへの方になん再ハ巻紙ハせよせ  
 講師の短冊れとりまや巻紙ハたれよの大指  
 と中指とあり主人中ハ巻紙とりて文章の主人  
 右の眼よき巻紙ハせよせ並ありさて短冊の巻  
 紙ハ奇紙披き紙して講師もやぐや巻紙を  
 返すすりありうねうち巻紙人ハかきと巻紙ハする

ありりよ巻紙乃人の不仍よ行て講じや  
 ねりりいしれ教ハ十たかりの時を甲ハ七  
 ハ母ハじハみハくハナハらハぬハありさてハ重ハよハせハぬハれ  
 奇と講紙の利ハさハこハいハとハりハれハ時ハハハ馬ハ性  
 此奇一首と甲よて講ト細ハ亦短冊あハば  
 懐紙のる油とハ重ハよハてハ講ハずハぬハあり甲ハあり  
 始あり甲しハ重ハよハれハをハりハハハらハいハしハれハじハく  
 重ハよハにハ奇ハをハんハとハいハてハ講ハずハありさて  
 馬紙ハらハ一首ハをハ甲ハよハてハ講ハトハ収ハハハれハをハれ  
 懐紙ハをハりハ乃ハ時ハハハ又ハ短ハ冊ハをハりハれハ時ハハハけハをハり



同おし赤き人のお講むるや二返かひは業  
既れ心一返と一書人なむとれおに通  
講むる例式の人徳業就は二通あり  
二返りもぐり甲る一甲乙なむしるり  
一返と一たるも人おかると舟時名業と  
よほほと心おらるもむきと一  
双と一赤中ほおれお人の名取もむ  
じんも講むり名業とばよほおと  
はて舟おらる講むり終て舟とよ  
よりとやとせらる講むり終て海安可

もし赤志れくの時の法けおとて終り  
中も心をおして講むるもむ名  
まむる

詠草れむりおの詠草の心書して一  
くも二首とくとお系たてふ書と書  
編も名業とむて備舟とくむり  
や二返りよと下りおらる

春日月

月やあむむるも  
我身

郭二

母しぎほるころかき紙

あじむをたごき明 浪

月が海を渡る

幸始れ余をいどしれどり村の一首の懐中  
きりぐし月次の時二月より三月あり  
又二首くてもちかく得よるがみそせつハセ  
首有くさて二月の題乃かやしと二そ  
いろはる季のものくわく一首ハ亦恋新か  
をいどきとさる月恋るハ今日雜と

たごいちがひにたおるり亦季恋雜をいどりハ  
冷泉家札やうりここれ細くハゆるし  
苗二条あまはかやれ出れ<sup>希</sup>者をいどり  
く題の文ドれ教のしとさし時大畧之文ド題  
りハ二そるがた之文ドあり余准之但お後  
ゆいあまよして中紙之文字にするりとも  
とホ一トとてとさるがしと一ト紙をいどこれ  
ありあまし一詠一そめ一ト題とハ不あと  
のるりまのあふだひとて題はるたかく  
もるりまのあふだひとて題はるたかく

杯に流るるこもさり。二それふひのそらに姑の  
野のあまの物のり。おく一そら箱もこも恋ま  
るもこ懐紙もも短冊もも箱の紙も  
まも出次ももこれあり。赤竹の詩の二句  
を題よ出はるるま。

風吹枯木晴天雨

のまや

ちんぎくの題れもまや

花盛

後弁を流る

右條々雖薰習住吉玉津島受聖流  
飛鳥井之曲節予縮頽齡七旬老昧  
並無其算。小惠不淺志歎執此道之  
間不殘心底相傳者也。且亦為一通之  
基也。

天文廿年卯月二日

平田入道

墨梅在判



ふじのまゝとてふへにや通明はれは  
くつたれとて用ゐるもいづれも取らぬ人の  
出づるまじくしては海もさるは斜臥くはれ  
あまのうらたに事し又題の教乃るは春林は多く  
書は夏あまのち林のまふあまのりまといは  
分がごとく又いまふよりまゝいづれもあ  
又恋新とては秋はごとく書しすといは夏冬  
りごとくまゝいづれも恋とては秋はごとく書し  
夏冬りごとく書しすといは夏冬りごとく  
しし恋新春秋はごとく書しすといは夏冬り

多くも半は又は夏季夏冬りごとく書し  
と書しすといは夏冬りごとく書しすといは  
さもたは夏冬りごとく書しすといは夏冬り  
書月の的月此題斗も半は雲は形なり書  
乃題斗の半は雲は形なり書しすといは夏冬り  
乃斗も半は雲は形なり書しすといは夏冬り  
今やの天象以下は天象地象植物動物を  
多くみれば新物をもよくいづれもいづれも  
いづれもいづれも天象は天日月星風雲  
煙や霞や霧や雨や霜や露や雲や雪や時雨や梅妻

ながののりゆまのほの境、朝晝夕夜も天象  
 此由の末、書い、ちか天をりし、ちかちか  
 て象、地、海、川の中、い、地、  
 物、の、り、居、不、は、高、寺、禁、表、と、も、ど、  
 此、多、い、い、い、い、草、木、の、り、  
 虫、形、形、や、雑、お、い、玉、鏡、枕、衣、笠、櫛、  
 帯、り、笛、舟、車、鐘、扇、糸、笠、蓑、ら、ど、  
 け、形、影、の、ち、振、か、ぶ、り、も、  
 也

二、本、家、三、青、  
 上、三、上、三、上、  
 春、其、  
 青、上、上、  
 紫、上、上、  
 也

色ハ地ニ象ルト云、冷泉家ニハ春其ハ青也ヲ上ニ可用、秋冬ハ紫ヲ上ニ用ト云、本式ナケレバ何レモヨシト云

題書様のし

通題ハ上ノ短  
 冊ニ於テ題ヲ  
 書ナリ、次ニ  
 短冊ニハカ、  
 是ニ余家流  
 ナリ、童子ヤウ  
 通題ノ時ハ高  
 位程上ニカサ  
 スルナリ、別題  
 ノ時ハ題ノ次  
 第ニカサスル  
 澄覚入道殿  
 所用ノ短冊  
 幅ニ寸長サ一  
 尺二寸上ヨリ  
 七步下ゲテ  
 題ヲ書ラル賀  
 ノ勸進青雲  
 ヲ上ニ用ラル

あ、く、作、す、の、書、初、の、字、下、福、ら、い、二、行、め、の、  
 字、成、書、と、め、れ、と、り、め、れ、た、格、と、書、い、ぬ、を、必、ニ、  
 行、め、あ、め、り、ふ、さ、ぐ、り、ゆ、め、の、と、く、ほ、ど、に、二、行、目、の、字、  
 長、字、と、て、い、ま、す、の、書、と、め、の、字、は、中、格、と、り、二、  
 行、目、の、字、は、成、あ、ら、う、と、い、う、が、或、ハ、文、字、と、い、ま、す、  
 小、之、字、と、末、に、一、字、と、い、ま、す、是、ハ、字、の、き、つ、き、と、い、ま、す、  
 一、つ、ゆ、と、い、ま、す、と、い、ま、す、と、い、ま、す、と、い、ま、す、  
 二、字、と、い、  
 に、わ、ら、う、と、書、也

山路 山 五月雨 五月雨 寄樵久 又ハ  
 尋む 五月雨 久

一本、本、家、ノ、字、一、字、下、テ、也



かゝるしやうとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
人又題のちとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
又さざりぬの井しとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
せめて乃のり人奇しきものもたゞはるの題ありし  
つらとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
てとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
けんたんとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
久し

懐紙

尚書ははるの題ありし

中り紙とて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
一たりとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
はるの題ありし  
一たりとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
不存の道の相傳も人奇しきものもたゞはるの題ありし  
一家絶果の題ありし  
付しとて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
その懐紙も人奇しきものもたゞはるの題ありし  
くもて人奇しきものもたゞはるの題ありし  
一行も人奇しきものもたゞはるの題ありし



自然の二字を一字とす。かゝるは只字不  
二字と云ふ。然るに一字とす。假名小の字は不  
法なり。上句乃字を一字とす。下句乃字が  
なれ。下句をば二字とす。あつても不苦なり  
あつても假名

やんじつ川いばと

二行目 やんじつ川いばと

三行目 小やんじつ川いばと

一増紙

一増紙の二行目上句を一字とす。よる事ニと

れ懐紙の題紙端はも書人又二そ和奇とも書人  
二そ之首とも小和歌と三行目一その時れとく  
書人之首の懐紙をば端作の題紙中子細る  
ふ事なり。下そもて同中と。高家のものどくを  
年よりして二そは懐紙の端作小題と書人努  
く他家の人言位を官人人もかざる事。母業  
内の人自然とて書く。不そ然人又奇を二行中と  
も二そ二そ二そ。此懐紙も書人他人不書。十そ  
か。六誰も二行小書。不苦。但十そ懐紙を  
も二行七字の書と云ふ。それとてこれとてい

よきしめそとてしるすきすでい二行ておし  
懐紙多きふ不書りのよき子細いあねたよ  
るど幸家よてのもの

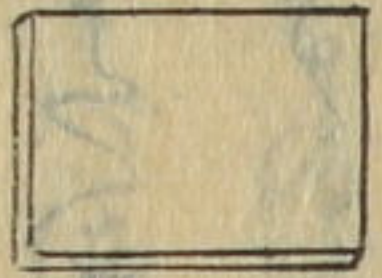
會之事

兼日よ形給る人救懐紙をたの袖よて會事  
おと下箱よると流舟よもしくおと懐紙を文巻  
のよよきと懐紙のよびむらじがすてき  
口傳でもハ半のせしねどる見る見糸よ時  
中人お武ハ文巻ふあてて現るおのよとけ蓋  
をあわけておと弦のよ木乃おおむらじが

しよておく<sup>人</sup>おの<sup>の</sup>文巻も同前け現る箱のよ  
まの文巻よても<sup>の</sup>のよとてよるまより<sup>の</sup>  
おね候ハおとさる間夜お給お少何い  
まの懐紙よ至てやそくお座の<sup>の</sup>後  
披露の時<sup>の</sup>よまよまよむらじ

人々人々人々 人々人々人々

人麿



講師

人々人々人々 人々人々人々

講師

人々人々人々 人々人々人々

け祝賀のありしはあかぬけぬあわけては讀師  
 勸てしめつけし二条家よりまじりあわけて  
 裏をとくたりしてまじり

本武命より下讀師よりまじりのまじり人皆く音を  
 文章よりまじりて後少勸てそのまじりまじり  
 てまじりまじりまじり折目読讀師は  
 つむぐまじり下むむむむむむむむむむ  
 紙のまじりまじり下讀師はまじりまじり人のまじり  
 にまじりまじり下讀師はまじりまじりお文章のまじり  
 と呼あて懐紙まじりまじりて懐紙をまじりまじり

下讀師よりまじりまじりて讀師よりまじりまじり  
 おまじりまじり下讀師のまじりまじりまじり  
 ますまじりまじりまじり

讀師之書

け讀師のまじりまじり二のまじりまじり  
 紙短冊より先懐紙よりまじりまじり短冊はまじり  
 ませしそのまじり文章より懐紙短冊はまじり  
 短冊より懐紙のまじりまじりまじりまじり  
 まじりまじりまじりまじりまじりまじり  
 まじりまじりまじりまじりまじりまじり  
 まじりまじりまじりまじりまじりまじり

歌の下に講師のむらひつけ、種々もけふと、  
お懐紙もと果つては、主懐紙ふりす、せと  
く文書乃下く、おれ、つて、あたん、て、  
よませ、て、種、冊、よ、と、と、て、て、て、前、の、ご、と、く、み、書、の、  
よ、ふ、い、け、き、し、お、て、お、り、せ、お、り、せ、お、り、せ、お、り、せ、  
下、よ、お、り、め、の、文、書、乃、より、し、と、講師、の、す、く、お、り、  
り、お、り、し、其、お、り、せ、も、筆、の、お、り、せ、ご、と、く、お、り、  
系、の、時、に、お、り、お、り、の、お、り、せ、は、講師、進、で、お、り、  
せ、お、り、

懐紙かきおのけい

披講して下篇をよぶ、上篇をとり、  
尚、存、た、お、り、せ、い、と、ら、り、講師、の、申、より、お、り、  
お、り、た、ら、い、お、り、せ、い、と、ら、り、お、り、  
お、り、せ、い、と、ら、り、お、り、  
下、より、お、り、せ、い、と、ら、り、  
上、篇、を、よ、ぶ、下、篇、を、よ、ぶ、

講師之書

講師、ま、ご、ご、の、後、を、お、り、  
切、り、お、り、せ、い、と、ら、り、  
小、用、り、

春日同詠寄松祝和歌 次名次之寄をむ  
尚家よはけやまことこゝを大和國と云はれよ  
二条家よはけやまことこゝを大和國と云はれよ

詠二首 和歌

二首よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
小つらもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
寄よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
おとこもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
志をこころこ

投講の夜

尚家よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
おとこもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
寄よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
おとこもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
此れは神子にききしうらむてをききし  
二条家よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
おとこもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
尚家よもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき  
おとこもむらさき色はなほ首はあらせよむらさき

和奇會次第 夜儀家之流

禁裏仙洞儀 先掌燈 高燈 在座上 主人之右講師右座  
兼存知之 如此可用也 以後改切燈 是燈也

取時、打あなは、不取す、司也、座席者未  
く、福よ又高燈臺と云、使直、所よ可、之、  
能、兩脚、或、一脚、

次人々多能集着座

主上已前、出御、於、持家、目前、主人云、卿、之、前、出  
客、之、中、但、云、何、下、可、然、人、許、也、

於、下、揚、者、置、和、奇、使、不、可、也、大、臣、以、下、之、然、公  
卿、兼、在、其、座、和、奇、之、清、也、加、用、意、不、可、落、

又、不、可、善、損、庭、深、代、相、傳、也、  
次、置、文、卷、本、或、ハ、双、管、ノ、蓋、之、あ、け、て、是、ヲ、置、又、普、通、ハ、用、文、卷、

繪、本、何、能、向、主、人、主、人、前、置、也、

文、卷、至、夏、殿、之、五、位、六、位、之、間、於、間、白、家、者、依、主、人、之、命、勅、之、也、諸、太、又、勅、之、

次、敷、講、師、四、座、

次、改、切、燈、臺、撤、本、高、燈、臺、共、步、敷、上、有、之、

次、奇、人、置、和、歌、下、揚、之、り、以、才、人、小、進、て、置、以、

左、右、手、取、奇、其、拈、右、手、之、也、右、の、手、カ、ハ、ま、じ、ら、ん、持、持、之、

上、よ、加、て、未、を、ま、じ、ら、ん、右、の、手、カ、ハ、ま、じ、ら、ん、持、持、之、

て、卷、終、を、卯、祭、膝、カ、乃、福、よ、出、也、物、と、文、卷、

下、よ、進、寄、て、突、左、右、祭、膝、カ、腹、本、の、右、手、を、上、乃、た、也、

可、考、て、以、文、下、詰、子、置、指、置、文、卷、上、不、

背座上不退。公宴儀制。大臣自座下進。膝行  
して。至。自余。固之儀。每事。可有。斟酌。在。事。  
和音。清書。文。是。法。進。旁。更。披。音。取。見。之。卷。  
之。置。之。由。隨。有。口。傳。度。刻。嚴。重。御。前。系。進。交。披。  
見。之。儀。片。後。痛。子。也。進。時。座。下。人。方。一。向。取。披。  
音。見。之。卷。之。進。て。至。り。各。異。音。訖。後。之。人。  
觸。氣。色。於。後。師。

次。讀。師。移。座。石。下。讀。師。尚。座。才。二。令。勸。讀。師。  
讀。所。取。音。少。返。文。是。蓋。置。之。石。下。後。外。令。  
重。和。音。步。知。位。次。人。是。儀。勸。之。下。讀。師。云。

次。石。講。師。其。詞。講。師。泰。是。讀。師。之。詞。家。說。

講。師。泰。進。之。後。主。人。觸。氣。色。於。音。人。亦。為。詠。  
吟。可。進。旁。之。由。之。此。講。師。之。泰。進。雖。令。前。後。  
大。略。同。時。之。或。講。師。進。て。之。後。石。下。讀。師。講。師。  
恒。例。用。五。位。內。裏。院。中。多。有。四。位。勸。例。

讀。師。作法。

依。主。人。氣。是。移。座。文。是。石。下。進。て。一。廊。取。和。音。硯。蓋。  
之。之。川。少。よ。及。て。至。之。家。の。說。石。下。讀。師。之。  
進。旁。先。取。下。為。懷。紙。奉。讀。師。取。之。硯。蓋。之。  
繕。て。令。讀。之。以下。向。主。人。與。之。題。之。時。先。披。讀。

題し奇奥く題を以て巻かると(奇く進來陸五六  
首端一紙控つて合讀し也)以兩様只可但主人  
之心者也但一紙を一方に讀候近年用之講碩  
考の禮有り下讀外重和奇始下篇<sup>終上篇</sup>重読自  
中押折天讓讀師讀所<sup>下</sup>合<sup>上</sup>奇を以り  
初<sup>後</sup>奇<sup>初</sup>合<sup>後</sup>讀<sup>初</sup>也奇一巡を讀めたり在文  
卷中不押折て置之取端上(及下)の文卷に  
立之

講師作法

晴儀凡為本式或ハ不取有其例應召文是本

進寄專不居因座懸行膝逃座下<sup>是</sup>是<sup>常</sup>在<sup>是</sup>  
但能不座可正座為<sup>是</sup>見文字之<sup>是</sup>家<sup>刻</sup>之  
強<sup>く</sup>寸大畧玉居<sup>テ</sup>可合讀<sup>る</sup>寸  
あ<sup>く</sup>を号額突講外見若<sup>云</sup>云<sup>講</sup>様假令  
春日同松寄祝といふ事<sup>を</sup>よ<sup>り</sup>る<sup>事</sup>  
さて人の名<sup>貴人ヲバ</sup>微音<sup>讀</sup>奇<sup>ハ</sup>寸<sup>切</sup>聲<sup>讀</sup>上<sup>題</sup>之<sup>初</sup>  
許<sup>讀</sup>之<sup>後</sup>々々<sup>ハ</sup>名<sup>斗</sup>席<sup>有</sup>ハ<sup>出</sup>連<sup>ハ</sup>行<sup>ハ</sup>寸  
に<sup>よ</sup>りて<sup>席</sup>を<sup>讀</sup>て<sup>後</sup>々々<sup>ハ</sup>題<sup>を</sup>讀<sup>て</sup>上<sup>讀</sup>和<sup>考</sup>  
之<sup>若</sup>六<sup>首</sup>之<sup>席</sup>有<sup>ハ</sup>同<sup>前</sup>之<sup>每</sup>席<sup>ハ</sup>物<sup>題</sup>斗  
よ<sup>り</sup>る<sup>事</sup>と<sup>い</sup>ふ<sup>讀</sup>之<sup>後</sup>々々<sup>ハ</sup>名<sup>斗</sup>讀<sup>て</sup>遇<sup>不</sup>達<sup>也</sup>



寄神紙祝と斗成て讀之。想ふ影とば可訓讀之。  
紙然用居る。訓日讀てきくにくもる可  
斗成す。懐紙を不縛紙卷及不見自不斗成  
て但讀ゆ。刑行又紙讀。認再不可讀也。家説  
先能く下讀て。奇此心成ゆ。後て出  
音之講を不待声早速起座可退之。詠吟等此  
間去解意。氣色不揺動頭。下身体。把笏  
人正筆。讀ゆ。被置次奇之後。又先入も奇説と  
後。如前讀ゆ。但し身ヲ見。同き。後々奇題。如前  
ト讀ゆ。由一説。紙有。略而不用。詠字讀極説。

かぐむ系 清浦用之。忍心を示す又説。よめ系 定家説之。

已上之説

やまやま 家説基後。やまとうら 清浦説之。二系家用之。

讀人名事 西前儀

六佐官 姓名 五佐官名 威名ニ 近年名字ナ 自名不知部臣

之佐已上官 姓朝臣 有兼官人 讀兼官

内大臣をくちねねいすくちきと讀

左大臣ヲヒタシテねねいすくちきと讀

右大臣 みるよのおほひすくちきと讀

持後心 准之讀心

云喜大略以武計長下奇儀訖早速起座  
御製衣襟仰以他人勅之、大畧為一議或中納言勅  
之内、御會他人不勅之、猶程作讀仰以置  
御製衣襟時讀之、

何と云ふ事は、（注）

榜家大長家、親王家准之、六位、（注）五位名朝長、

四位官朝長、云卿ハ官斗、

講頌事、御前之儀、

御製七反、或ハ十反、榜家之反、或ハ五反、親王家准之、  
右儀、每人之反、詠之、近代下賜、奇不遇一反、  
（注）或晴會、近  
年下賜、奇  
每人二反

又ハ所次之文在之、誤脱依左記

此一卷、乍糾、敵、少、慈、令、之間、以、庭、訓、之、  
青、具、記、進、之、傳、家、明、鏡、深、可、被、禁、  
外、見、者、也、相、傳、恐、雜、為、和、

（注）内ハ御會下簡之、再二反之儀、更之、講師進参、之、後、是、  
觸、年、令、公、卿、之、下、講、師、之、左、右、後、進、進、寄、  
近年講頌、之、人、數、奉、行、人、權、之、殿、上、人、者、名、道、者、許、  
女、音、之、輩、後、道、者、進、也、事、記、各、復、本、座、  
主人入御之、  
後退出、

又

夫和歌之宴者本朝之風儀也故干花干月干賀  
干哀進退有式以嚴以和雖然動作日亂風姿  
晚衰聊雖官途例不知故實甚多焉予胸臆  
粗記之慢任筆而已

公宴之催大畧

先召可為奉行之人來何日可有和歌之宴之  
旨被仰出奉行之人題者誰讀師誰及發聲誰  
講師誰卜奉之各以一通觸仰之近代以豎文  
內催之  
其文大畧註之官位尊卑家々ノ文  
法多之聊畧之

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 夫和歌之宴者]*

題者遺又文

來何日可有和歌饗宴可被撰題之旨被

仰下候仍早々得御意候也

講師遺又文

來何日可有和歌披講可被候講師之旨被

仰出候仍早々得御意候也

讀師遺又文

來何日可有和歌披講可為讀師之旨被仰

出候仍早々得御意候也

發聲遺又文

來何日可有和歌披講可為發聲之旨被  
仰下候仍早々得御意候  
出候之時和分沙人教觸也又

龜万年友

右出候來何日可有  
披講被泳進者可  
令據泰給之旨被  
仰下候仍早々得  
御意候也

月日

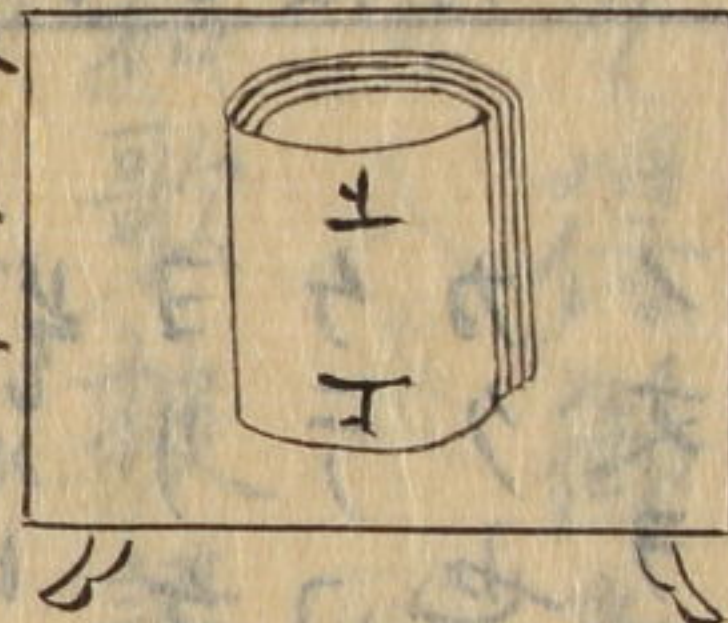
秀人王連書也

近刻詔何刻也

中檀紙或大奉書等ヲ用  
御人教連昏幾枚モ重テ  
是ハ口ノ折ニカキ中ノ折ノ端  
ヨリ文ヲ書出シ奥ノ折ニカ  
ケテ月日ノ次ニ名書一ツニツ  
カク也寸ニツ名書ノ終ニ迄碇  
ノ文ヲ書ナリ

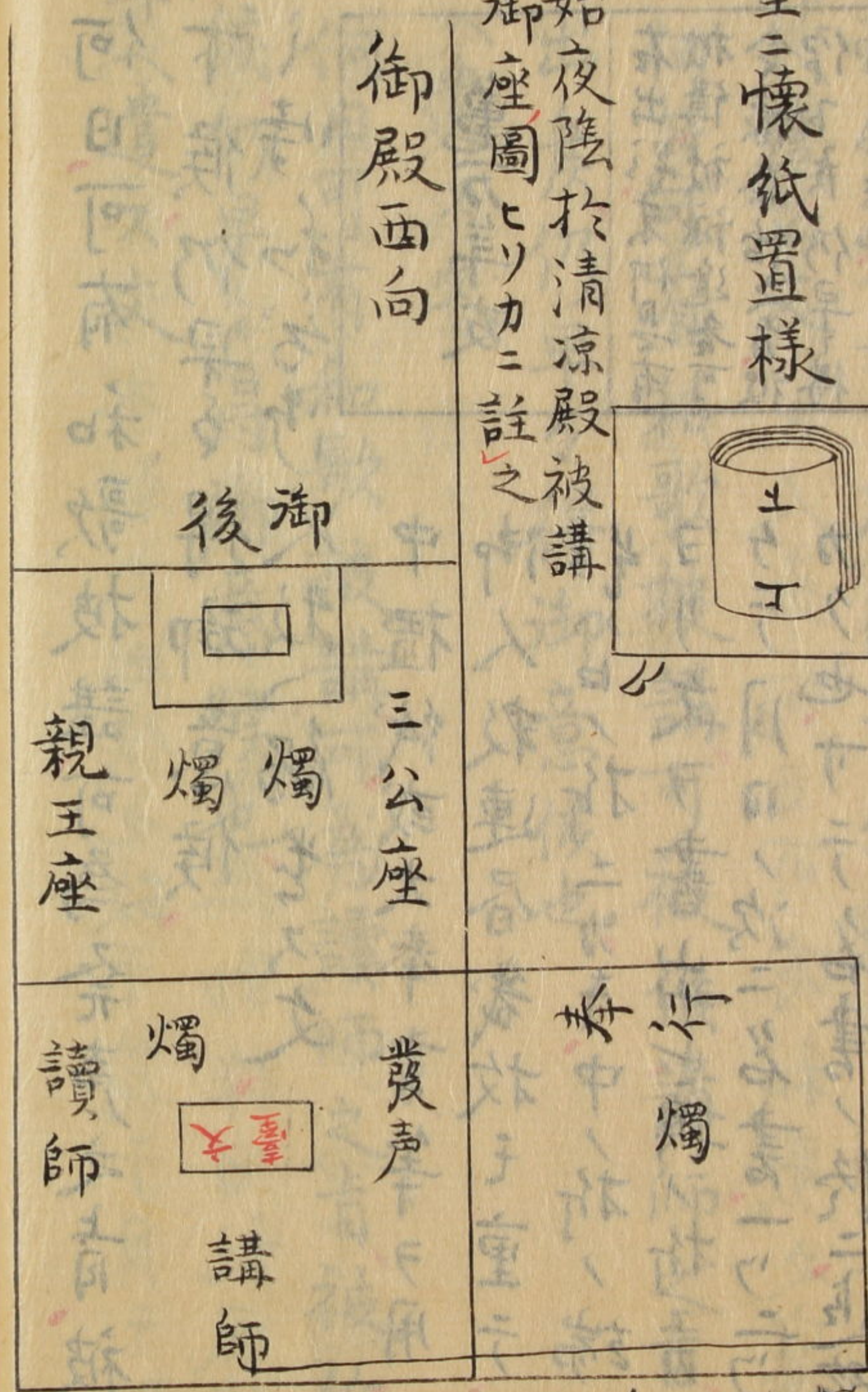
當日奉行早參之御殿ノ催等ヲ見繕フ諸卿  
調懷紙持參シテ進奉行也奉行懷紙刻限催  
之

文臺ニ懷紙置様



御會始夜陰於清涼殿被講  
御殿御座圖ヒソカニ註之

御殿西向



下段

先奉行御催ヲ奉テ催之奉行懷紙ヲ出御  
前ニ文臺ニヲク次ニ出御次三公着坐次讀師  
着坐次發聲着坐次講師着座作法下註

作法大畧記之

讀師イサカ膝行シテ着坐ス次發聲同次講師  
文臺ノイサカ前ヨリ膝行シテ着坐各着座シテ之  
公已下安座

次讀師取下懷紙一枚ツ文臺ニヲク次講師  
讀上ク讀上ノ法  
別ニ記ス次發聲次講師頌之人同音

講師讀上之法

先懷紙ヲトクトミテサテ端作りヲヨム其言葉

タトヘバ、ハルノヒヨメルカメハハニセイノトモト云ルヲ。ヤマトウタ春日詠、詠ノ字御製ハヨマセタマヘルトヨム龜一カ歳友和歌、此言葉多端畧之次、哥ヲ五文字ヨリ一ウツヨニ上ル也。先心ニテ吟ミテ、一ウツ々々ヨニ上ルトメ、假名ハ発声ノ調子出シヨキヤウニ覺悟スベシ。  
 凡、懷紙ハ下、觸ヨリ講之。  
 講頌之及數、天子七及、三公之及、諸卿二及、御製ハ御座ニヲキ玉ヲ讀師進取テ、文臺ニ置、講師座ヲ改メントス、其マ、タルノ由仰ヲウケテ、御製ヲヨミアゲ、發声ノ調子ノウケ、講師ハ退

下ス

奉行催ノ外

諸頌之人、和哥御人教ノ内、律ニ志アル人、兼テ被召仰  
 陪膳之殿上人、四位五位ノ雲客召之、大臣被催之時為給仕  
 六位藏人

御月次催之度

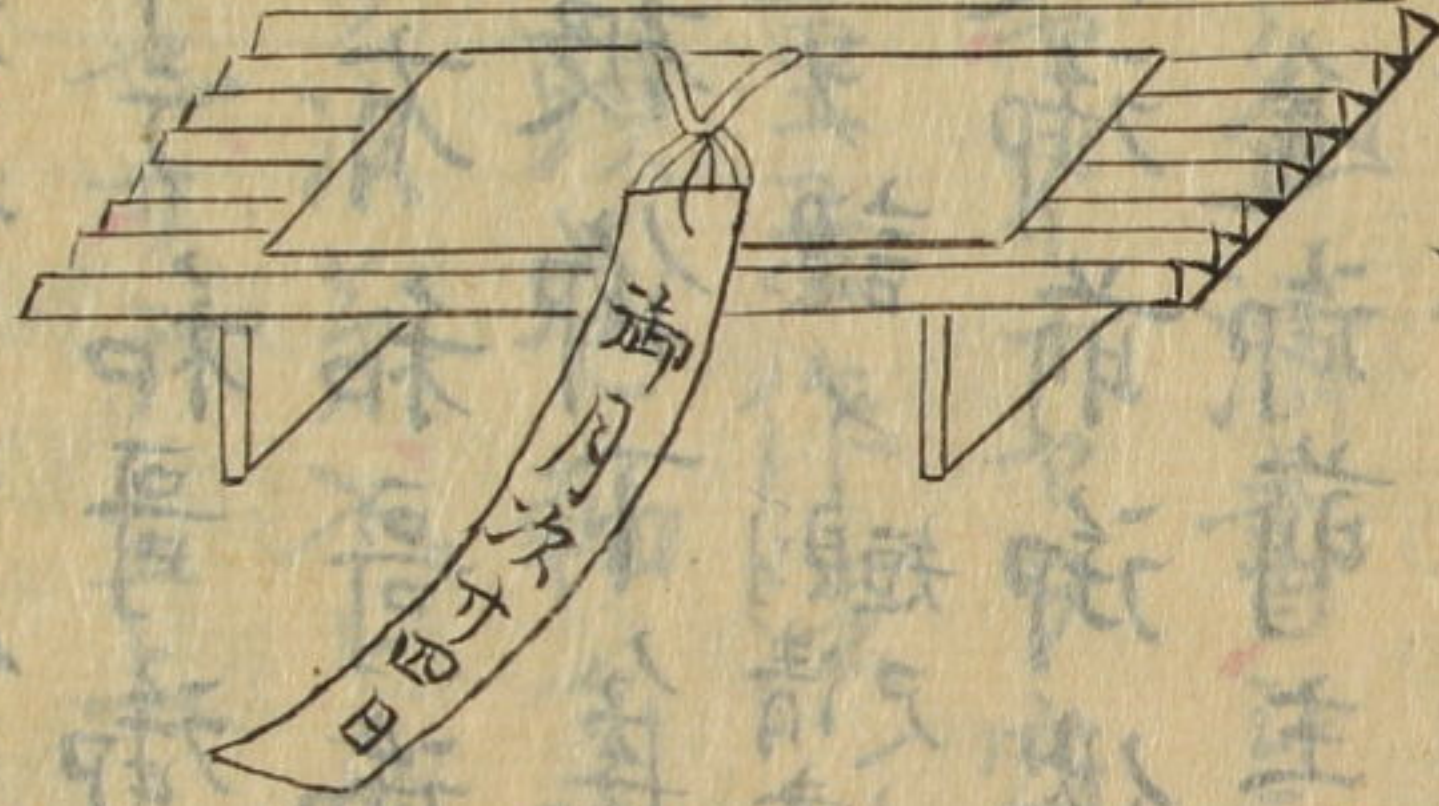
懷紙短冊、月替リ也、毎月日定ルノ間、其已前、題者撰題遣奉行奉行觸之、其文

田家月湖上亭  
夏意

右出題今令詠進  
給者彼仰下  
仍同くは夏意也  
月日 名

一 度	一 度	一 度	一 度
--------	--------	--------	--------

懐紙ハ詠進之數多少定マラス  
短冊ハ百首包様等次ニ註之  
短冊表ハ包ニ小壇帛ニツ折包 柳筥ニノセ小札付ル



御法樂ノ札ハ此通也  
聖唐御法樂

柳箱ノケタカズ吉事ニハ半ヲ用凶事ニハ重ヲ用

奉行仰ヲ奉テ、和哥御人數へ觸遣ス其文

當座御會之催

來何日可有和哥御當座各可令矣

給之上日被仰下候仍得御意候也

當月題者題ヲ認則清書短尺也奉行ハ渡ス題ヲ紐

合テ蓋置上段御前御催之時各著座公卿之

上首取題ノ蓋進御前主上取玉ヒテ始ノ取トクニ置

ク陪膳ノ殿上人題之フタヲ取三公ノ前ニ進ス三

公取畢テ題ノフタヲ中段ノ中央ニ置テ退ク公

卿以下進テ取短尺畢テ又公卿ノ上首硯帟ヲ

漸  
暫ノ意ハ

主上奉テ歸座ス又陪膳ノ殿上人硯帟ヲ取

テ三公ニ進シテ退ク次六位ノ藏人硯紙ヲ取テ

諸卿ニ進ス各安座シテ吟ス漸時出御ナリテ

大方ハ入御ナリ各清書シテ短尺ヲ奉行ニ進ス

奉行講セラルヤイナヤヲ規テ召職事

題ノ紐童子作法

先題ノ童子卷頭卷軸々眼ノ短尺ヲノケテ當

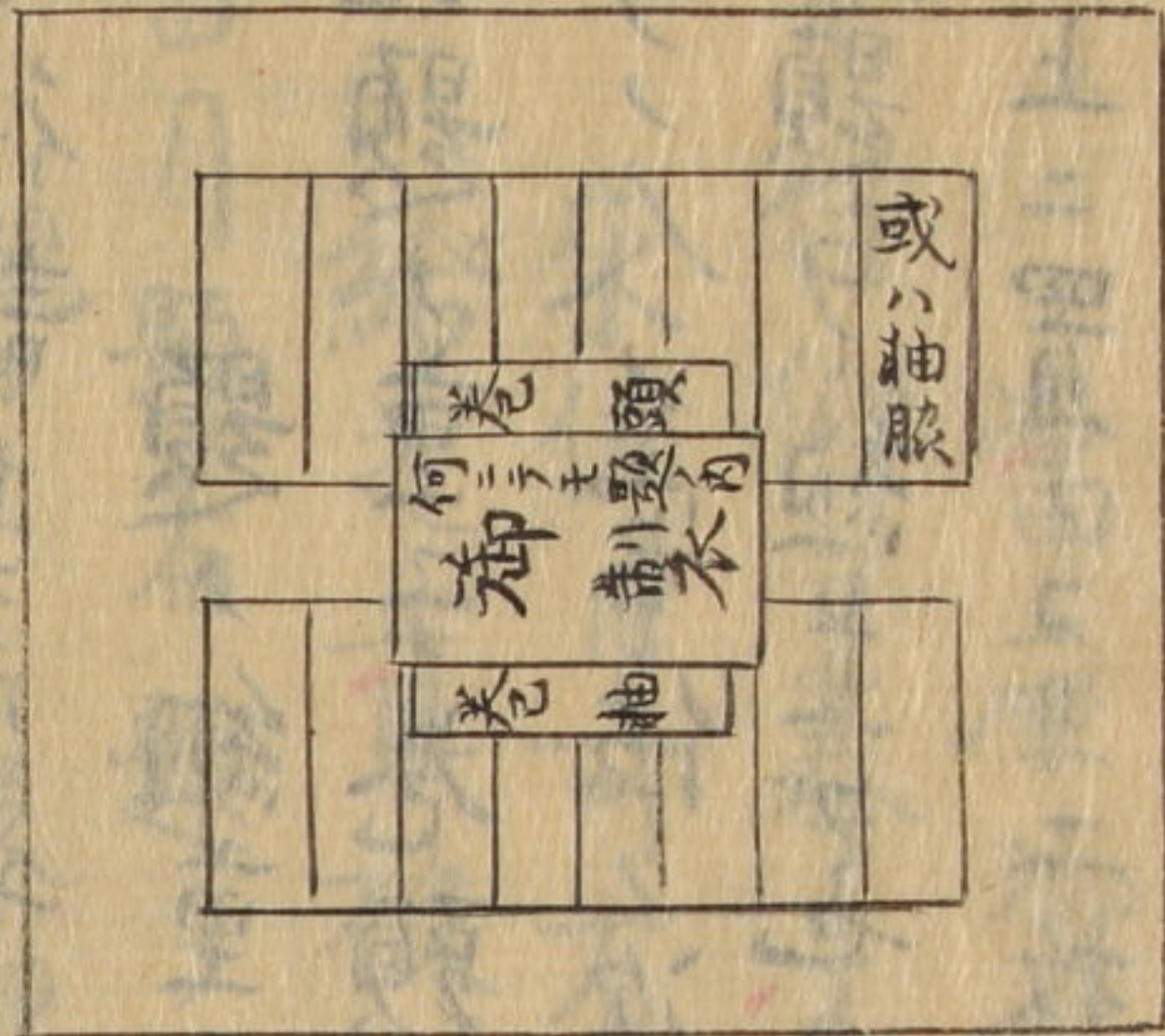
參ノ人ノ官位ノ次第入レ交ルヤウニ然ベク見合テ

扱題ヲ紐並ブ也サテ主上ノ詠シ玉フ題ヲ兼テ奉

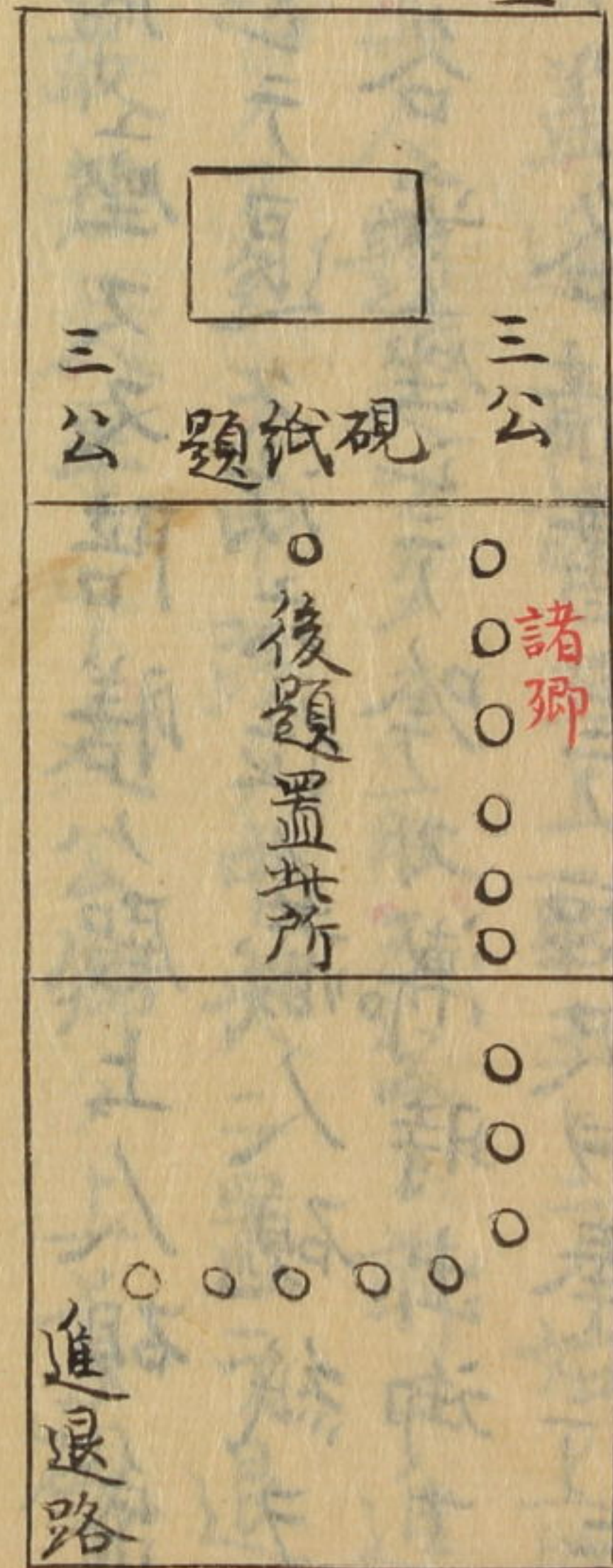
テ上ニ置ノコリニ扱下ニナラベ置也



御當坐ハ小御所  
ニテ被催之御座  
ノ圖ヒソカニ註之



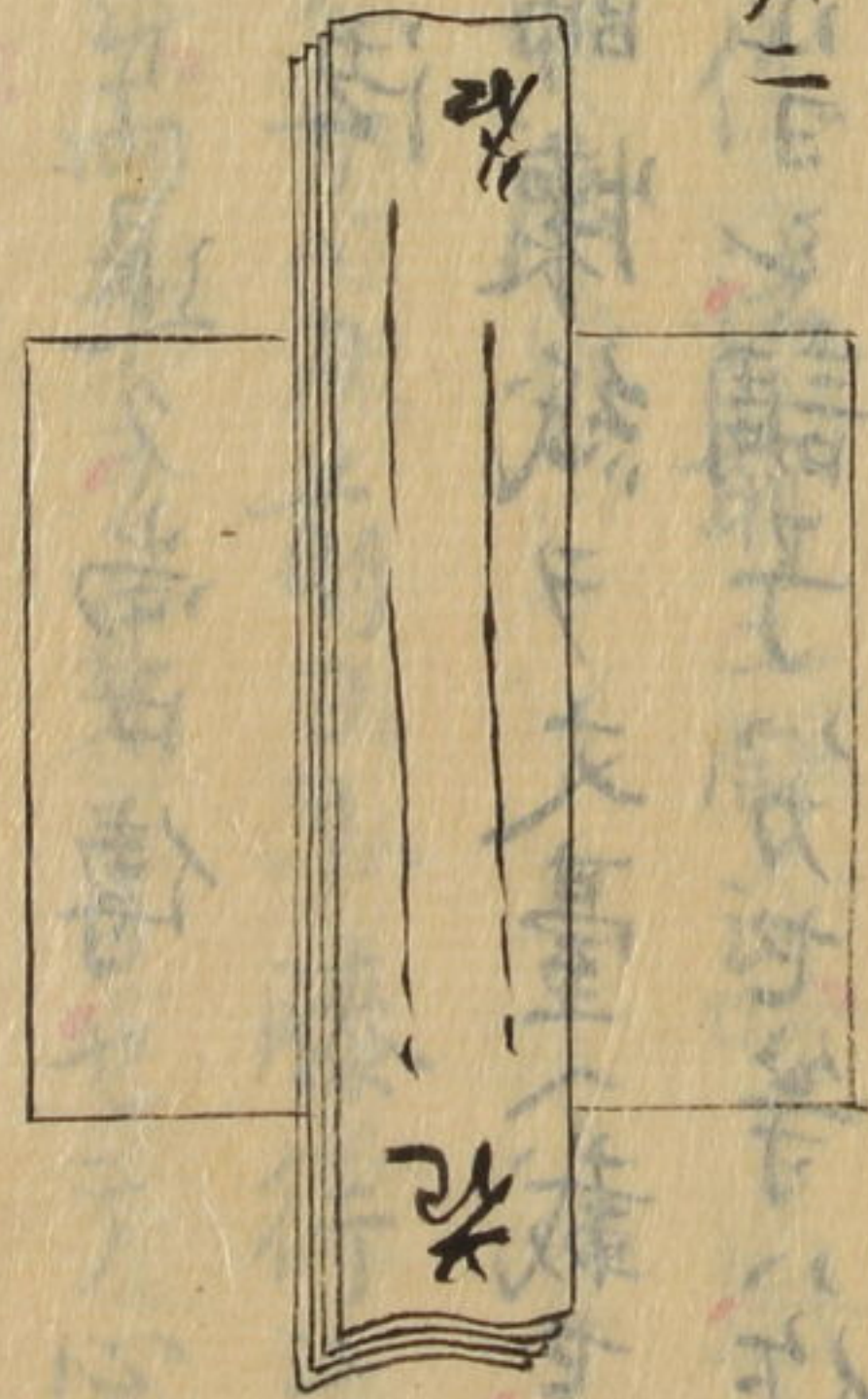
コレハ巻頭巻軸軸服トカサ子ナリ是ハ  
軸服ヲ御制衣ノ時カクノ如シナクハ  
巻頭巻軸バカリ上ニラク其時ハ重  
テラク也巻頭巻軸ヲ上ニラク時ハ重テ  
モヨレ故實多シ筆ニ不及



披講之時奉行短尺ヲ次第ニ

重子硯蓋ニノセ中段ノ中央ニ  
置也

上段ヨリニ疊ホト引下シテ置  
ナリ或又公卿上首ノ前ノ通り  
ニ置歟時宜可有之



如此結之也

講師取短尺聊下座シテ講之  
元ノゴトク置テ退ク作法下ニ奉行  
短尺ヲトリ以帛記之捲短尺ノカシラ  
ヲ結テ収之或白紅ノ水引ヲ以結之



讀師之進退作法

先臨席一揖シテ立テ坐ノ聊前ヨリ膝行シテ着

座サテ講師着座シテ懷紙ヲ取下ス先講師座ヲ  
ガシ居向ヒ右ノ手ヲ以懷紙ノ双ヲトリスグニ懷紙ヲ  
マハシ丸ノ手ヲソヘ兩手ニテ座ノ前ニ置一枚ヅ文臺  
ニラク也コノ時懷紙トリナラシ字ノ頭ヲ我マヘ回シテ  
右ノ手ニテ紙ノ端ヲトリ載文臺ナリ委細ハ口ツカラ  
ナラテハ傳カクシサテ講終テ懷紙ヲ文臺ニヲキナガ  
ラニツニ折カヘシテ下座ヘ回リ退ク尚口傳

發聲之進退作法

着座ノ作法右ニ同シ講師懷紙ヲ文臺ヘ載セ講師  
ヨミ上ル間ニ心ヲツケテ見ルヨシ調子ハカセ等ハ作法

ノ外ノ口傳ナリ退下ノ作法前ニ同シ  
講師之進退作法

先臨席一揖シテ立坐ノイサカ前ヨリ膝行シテ文  
臺ノ前ヘ尺ヲ去テ着坐シ兩手ヲ身ニヨセテ心ヲシ  
ヅメ外ノ物ヲ見ナルヤウニヨサテ講師懷紙ヲ文  
臺ニヲカバ右所記ノゴトクヨミ上ケヨ音聲ノ甲乙等  
口傳不及筆退坐ノトキ聊丸右ノ手ヲツキ跡ヘスサ  
下坐ヘ回リ退クナリ

同心得之夏

發聲ノ人ノ音聲可知事

臨懷紙ムツカシキ假名或ハ心モトナキ字ナドアラバ  
讀師ニ尋ヌベキト

短冊披講之作法

先席ニノヅミ一揖シテ立硯蓋ノ前ニテ聊膝行シテ  
硯蓋ヲサシ引ヨセ短尺ノ双ヲ右手ニテトリ其マ右  
手ヲヨセテ兩手ニテ持ナガラ聊退キスガニ左ノ膝  
ヲ立テ左ノヒヂヲ付テサシ斜ニ坐シテヨミ上ルナリ  
讀ヲハル短冊ヲ下ヘクリマハシクスル也言葉ノツバ  
キ懷紙ノヨミ上ケヨリサシ句ツギキ早クシテスラ  
リトトヨミ上ベシ讀ヲハツテ進ミ初ノ如ク短尺ヲ

置キ硯フタヲ本所ニナヲシ聊手ヲツキ退キ下  
坐ヘ面リ退下スル也  
短冊ハ題ヲタシカニヨミ上ゲ次ニ名字ヲナガラカニ  
ヨミサテ哥ヲスラクト句ギリタシカニ息ツギアラ  
カラヌヤウニヨムベシ  
懷紙モ息ツギ大事ノ口傳トソ申侍ル先春日トタ  
シカニ同トナガラカニ松トタシカニ佳庵アリト云字切テ  
トノ假名ヲサゲテイヘルヲヨメルトナガラカニヨミ  
上ル也サテ官位姓名ハイカニモナガラカニ調子ヒキ  
ク讀ベシサテ哥ハ一句ツ、ホドノ間ヲ置キ一句ツ、ヨミ

上ベシ右大概註シ出スナヲ口傳ナラデハ故實難教

御當座ノ時後奏之作法

題ノ硯蓋ヲトル直先ツかくト行キ硯蓋ノイサ、カ手  
前ヨリ膝行シテ両手ニテ取持テ卷双ヲヨムベキ人  
ノ前ニ置辭讓ノ間蹲居メ待居又蓋ヲトリ卷軸  
ヲヨムベキ人ノマヘニヲキ辭讓ノ間侍坐メ題ヲ取終  
テ硯蓋ヲ始ノ取ヨリイサ、カ引下シ置キ退クサテ  
各次第ニ題ヲ取り退キ畢テ又硯蓋ヲトリ退ク  
也次懷紙ヲ取直先硯ヲ重子ナガラ取持上座ノ  
前ニヲキサテ紙ヲ上座ノ前ニヲキ硯一重ノコシテ

次第ニ出座ノ人ノ前ニ置也紙ハ出座ノ人次弟ニ取マ  
ス也トリ終テ帛アマリアレバ取り退キ此間便所ニ待  
合テ居ルナリ

右ノ作法天子ノ役奏ハ公卿ツトム三公ハ殿上人ツト  
ム諸卿ハ六位藏人ツトムル也

懷紙清書之法

先懷帛ノ長一尺二寸常法也檀帛ノウラ表ノフ入  
木道ニハ世上ニ用ル紙ノウラヲ表ニ用ル也何モ取意ニ  
任セテ然ルベキナリ端作ハ紙ノ端ヨリ手ヲフセテ置  
ホドノケテ書也春日同詠松有佳色トカクニ日ノ

字ノ上ヲサシアケテ書也。夏日、秋日、冬、日ナドハ日  
 ノ字上ヲアクルニモアラズ、又ツヅクルニモアラズ、入木ノ口傳  
 ナリ、和哥ノ字一字サカル程ニカク、官姓名ハ詠ノ字ノ  
 下ホドヨリ書、姓ノ字藤原源等墨ウスクホソクカクナリ、歌ハ  
 三行ニ字常ノ法ナリ、字ノワリハ九十九ニ凡九九十三  
 トモ書、或ハ假名クバリニヨツテ、字ノクタリ多ク、不苦  
 ク有之口傳、墨ツギノ、家ノノ説々アリ、何レモヨロミ  
 ニ字カナニ二字假名ナドノ、一字ノカナノ中ニテ不續カ  
 ヲシ、

紙、縦一尺二寸、横一尺六寸

コノ間、手ヲフセテヲク程

春日同詠、松有佳色

和歌

權大納言藤原

一一一一一一一一	九九
一一一一一一一一	十九
一一一一一一一一	九十

*(Faint background text from the reverse side of the page)*

同字ノ一、御製ノ題ニテ、臣下同ク詠ズル故ニ用ル字之、  
私之亭ニテ會始ナドニハ、春此間カク日詠何々、或ハ詠何々ト  
端作ヲ書ベキナリ、

端作ニ同字アルヲ、夕トヘバ、柳辨春色ナドノ類ヒ、春  
字ニツナレバ、上ヲ真字、下ヲ行字ナドニカキ替テヨシ、  
此外ハ准ジテ知ベシ、大概端作ハ行字ニ書ナリ、  
歌ノ書様ハ、万葉書ニモカクベシ、古徳ノ云ル故實ニ、和歌  
ハ三十一字ノモノナレバ、假名ニテ三十一字アルヤウニ書  
カヨシト侍ル夕トヘバ、萬葉書ニテモ、ムツカシキ字ハカ、  
又ヨシモシカ講師ナドヨシ誤リタルトキ、外ヨリ人ノ聞テ、

其人ノ歌ハ詠ホマタルヨナド、笑フ、當分作者ノ誤ヲマ  
子クフナリ、懷紙モ短尺モアリフレタルヤウニ書ヨベシ、

三首懷紙書法

端作ハ夕トヘバ、春日同詠三首和歌ト一行ニ書也、官  
姓名ハ詠ノ字ノ下ホドヨリ書、題ハ名ノ字ノ左ノ通  
リニヨセテ、横ハ日ノ字ノ通りナリ、哥ハ二行七字ツ  
、ナリ、

七首マニテハ紙ヲ續テカクナリ、四首メノ題ヲ  
紙ノツギメノ右ニカク也、紙ノ末ハヨキ程ニ切  
リスウルナリ、

短冊清書之式

<p>春日同詠三首和歌 權大納言源一</p>	<p>霞隔遠樹</p>	<p>逐日花威</p>	<p>互被厭恋</p>
<p>一一五 一一五 一一七</p>	<p>一一五 一一七</p>	<p>一一五 一一七</p>	<p>一一七 一一七</p>

三ツ折一字カケテ書ハ常例也。題ノアル短尺ハ三ツ折  
除テ書ト云説アリ。是ハ故實アルナリ。若題ヲ院ナド  
ノ撰ヒ玉フ短尺ナレバ三ツ折一ツ除テ書ト侍ルモシ  
題ノ字多ツマリタルハ題ノ字半カケテ認ベキナリ。古例  
多シ。

尋花

名のこゑをすはれは誠志のこゑ  
おとろゆるは春の山を定家

待郭云

空明

ほろこきほろこそつくは  
きれぬ名のこゑをきこゆら

行ノ左右ヘヨラヌヤウニナル程スラト書ベシ上ノ句ノ下ヲ  
心モチアゲテ各ノ下ノ字心持サゲテカリベキ也

詠草之認様

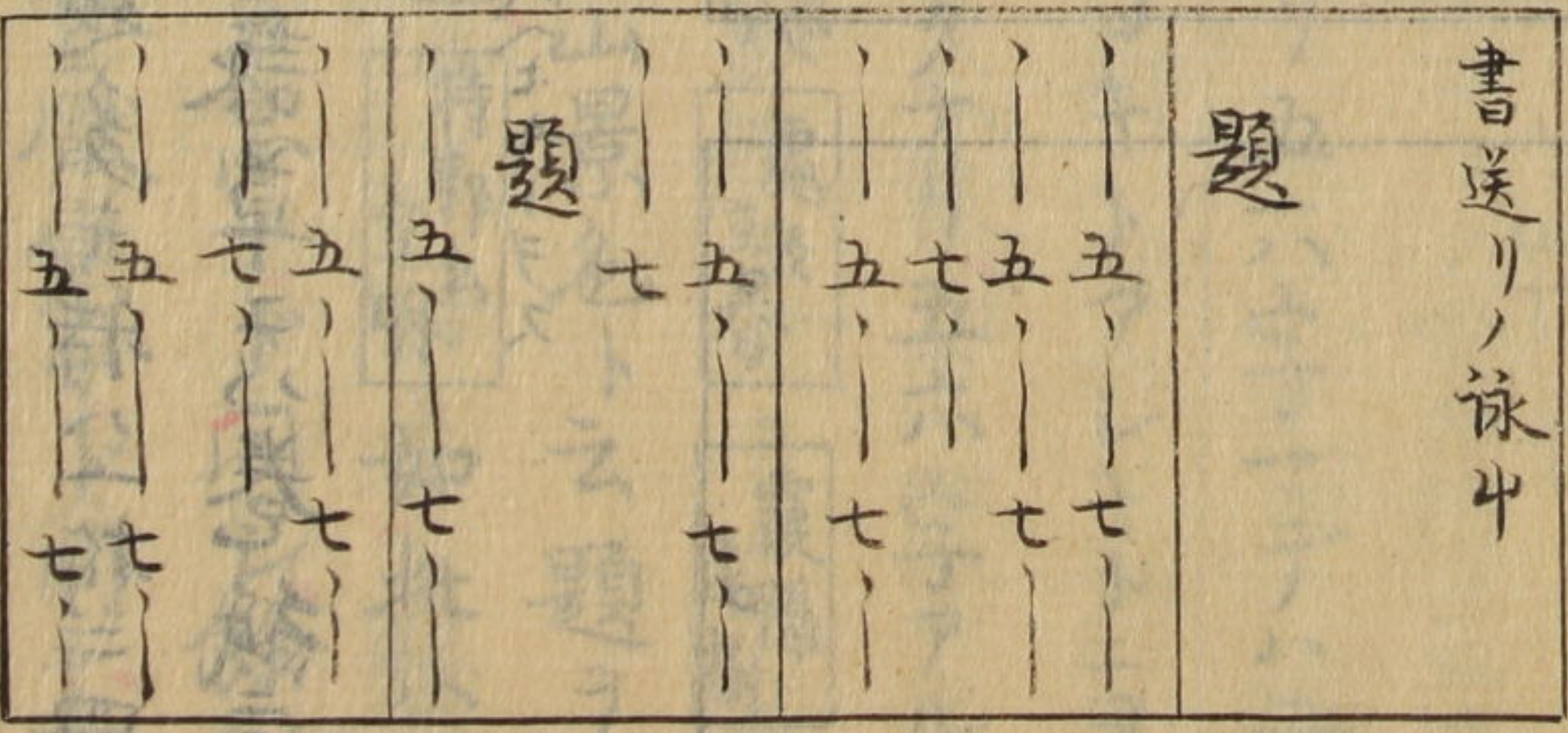
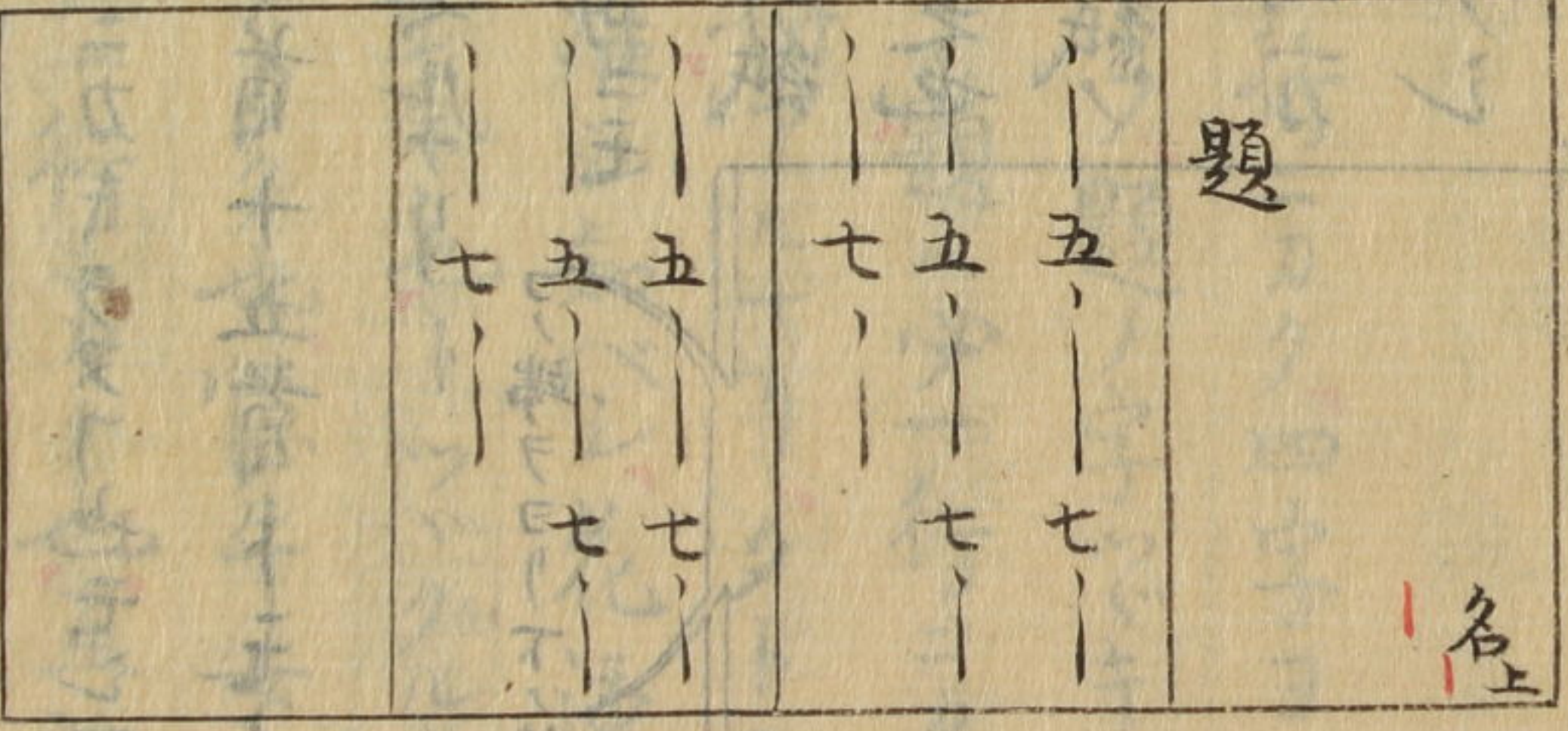
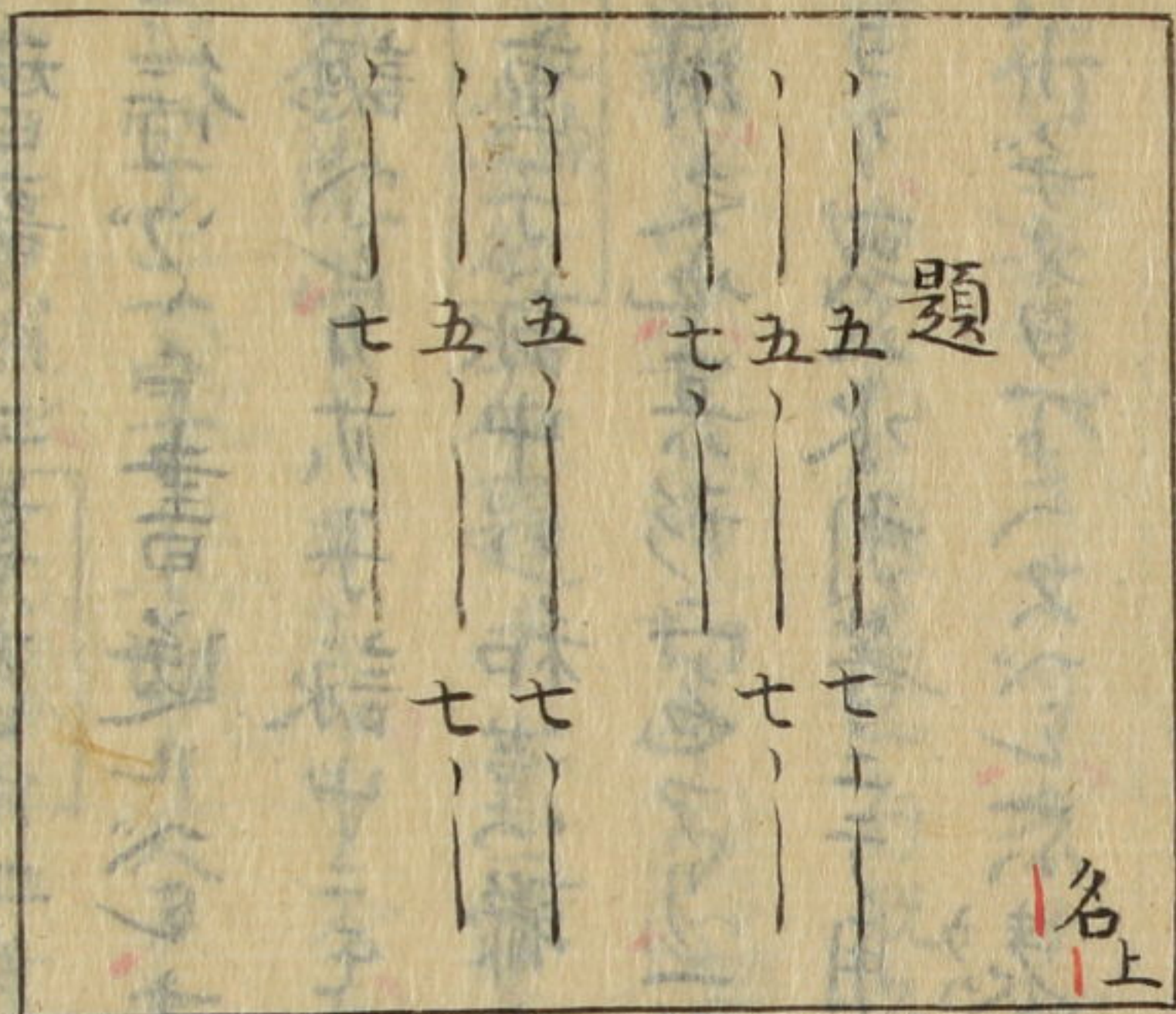
貴人或ハ始タル人ナドニ點ヲ請ニ先堅詠草ヲ用ユ  
四ツ折詠草無難ナリ紙ハ中檀紙小檀紙オニ杉原  
ヲ用ユ杉原ハ強紙ノ代ナリ大奉書等ヲ用ユ畧例ノ由  
申侍ル色紙ホハ女房ノ外ハ堅ク不聽之事之堅詠草認メ  
ヤウ紙ノ端ト題ノ間指四ツガセ也。知ト除テ題ヲ書ベシ  
哥ハ三首カク程見合ニ與一ツヲ除テ二首書ベシ尤ニ  
行七字也。名ハ題ノ右ノ下ニ可書女房ハチラシ書ニテ

毛不苦聽之

折詠草二行七字オニ折オ三ノ折ニ書之

書送りノ詠草

或説云詠草ヲカク紙ハ小奉書又ハ杉原  
ニテモ紙ナキ紙ノ新シキニカクベシ





替哥氏二首ナレトニ首ニカギラヌヲ也モシ題多キ時ハ一折ニ四  
行ヅニ書送ルベシ十首十五首トモノ詠草ニハ卷紙ニテ  
認ベシカサ子詠中ニモスルナリ

重子詠中ハ和漢聯句ニモ

用之也其形ニ也アリ一ハ紙

ヨリ或ハ水引等ニテ用之也

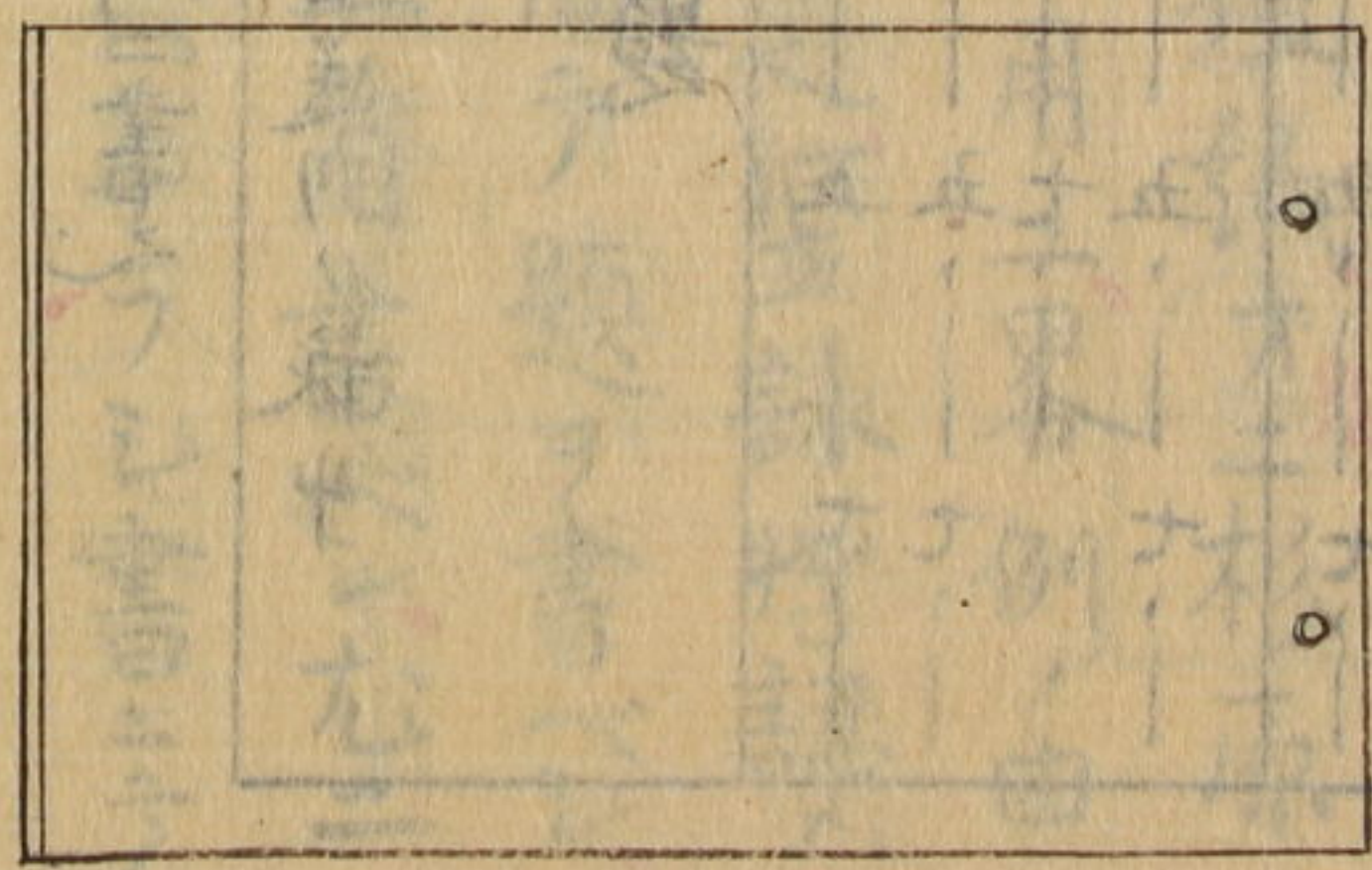
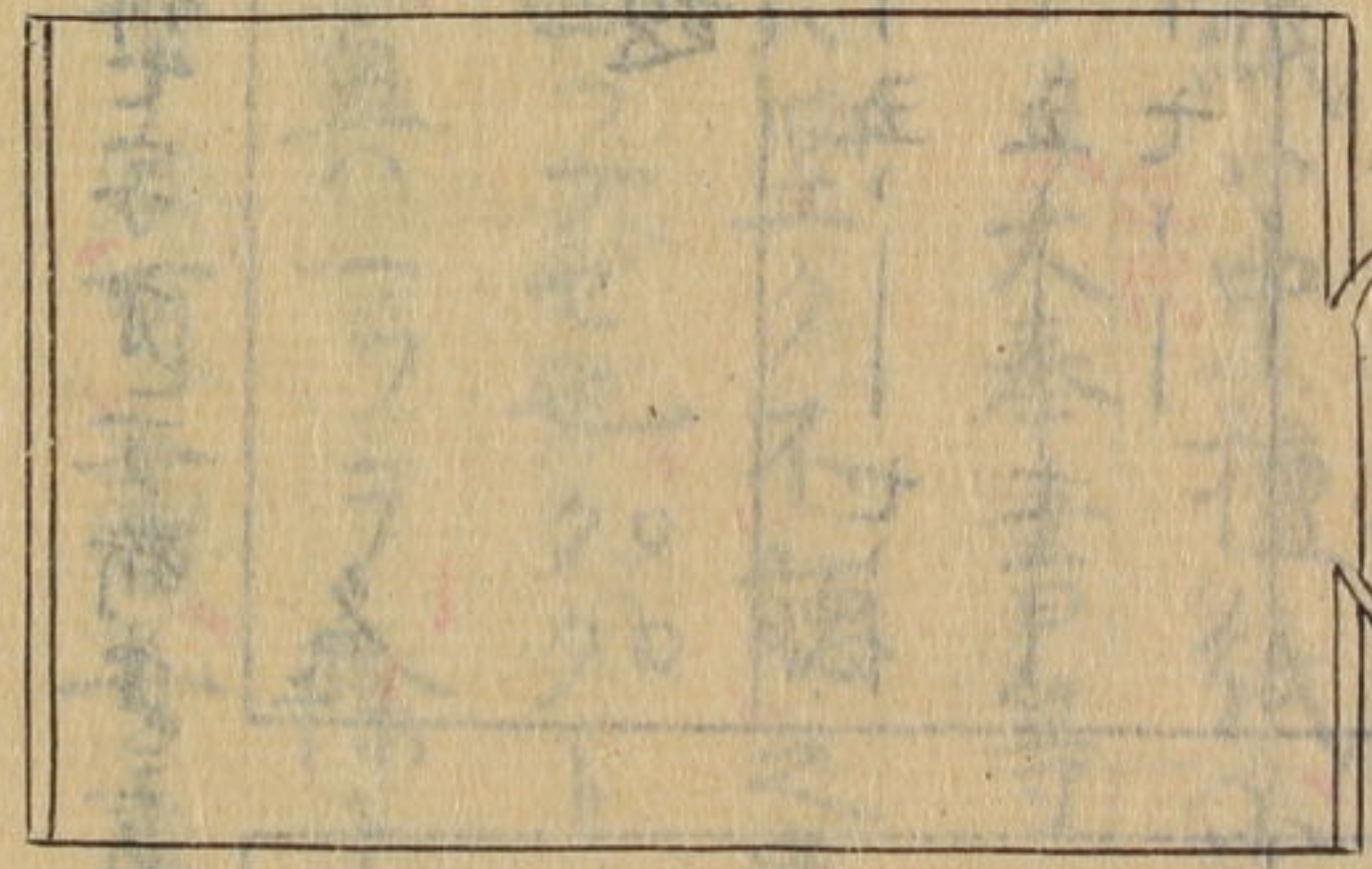
トヂメヲ下ヘスベシ一ハ表紙

ハシヲヨリノハハホドニ兩方

ヨリ切カケ下ノ紙ヘトヲシ

結ブナリコレモ四折ナリ

コノ端ヲヨリ下ノ紙ヘキトヲス



漢和等ニ用ル時ハ三ツ折ナリ

### 題書法

一字ヨリ四字マデハ一行ニカク四字ヨリ五六字マデハ二

行ニ書ベキナリ去ナガラ題ノ字ツヅキヨキトアシキトニヨ

リテ四字ノ下木一行脱スノ題ハ必一行ニカクナリ五六字アル

題ノ字書キ切ヤウ心得アルナリ夕トヘバ

花添山トハカキ切ラズ山氣色トツヅクル也

三字二字ト切り分テカク也憶牛女言志ナド同シ餘ハ

准ジ知ベシ

逢不遇恋 如此ハ一行ニカク也互被一厭戀ナド同上

花添山景也

處々春

霞隔遠樹

待郭空明

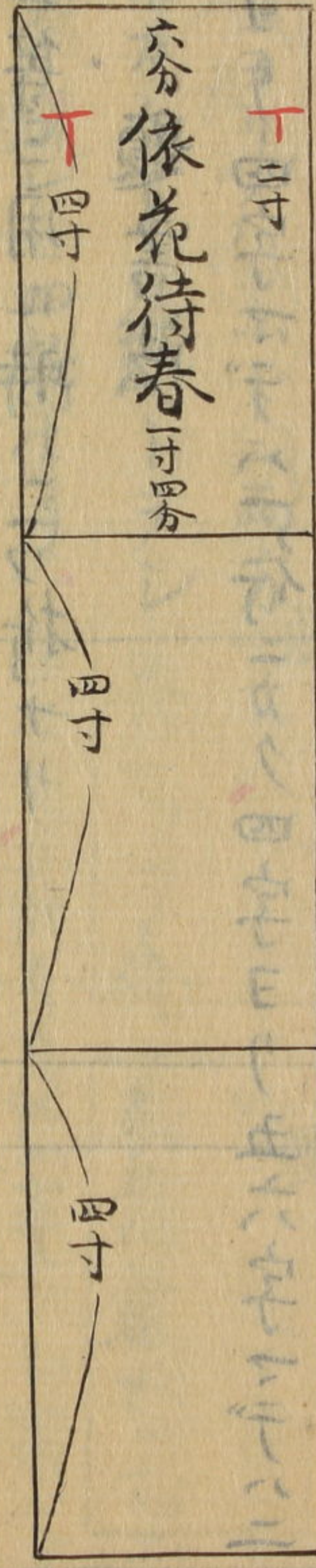
如此ハ

ハ一字ノ切タル題ナリ 臨期慶  
約恋 如此ハ二字三字トカテモ

三字二字トカテカキテモクルシカラズ 春風春水  
一時来 如此詩句ノ題

ケテモ下ヘツツケテモ通ズル也 多シ右ニ准ジテ分別スベシ

化短尺ノ幅二寸 一寸八分古體 長一尺二寸ナリ 題ヲカクニニ折ニ



一尺二寸ヲ三ツニスレバ四寸ヅナリ 哥ヲ一字カケテ書ヌレバ  
程合モヨシ 當座通り題ノトキハ 詠草ノゴトク四ツ折ニシテ  
ニ折目ノ中ニカク也 或ハ又ニツ折ニシテモカク也 又四ツ折  
ノ口ノ折ニモ古體ノカレタルヲミルニ折ハ必中ノ折ニ  
カクベキ也 通題ノトキ 清書ノ短尺ハ人数ノ内ノ貴キ  
人カラ 或ハ老輩 其座ノ上首ノ清書ノ短尺バカリニ題  
ヲ書ベキナリ

花忘老

ニツメノ折 或ハ端ノ折ニモ

田家霧 湖上月  
變約恋

三首ノ時ハ各懷  
紙ニシタムベキ

所作之事

題ヲトルニ先座ヲ立テスルト硯蓋ノ前ニ行きニ  
足バカリ膝行シテ左ノ手ヲツキ右ノ手ニテ題ヲトリ  
又ニ足ホドシサリ坐ヘカヘルサテ坐ニ居テ題ヲヒラキ  
見テ懐中ス此間ニ役巻ノ人サテ紙ヲ次ヲニトリ廻ス  
先左ノ手ニテ紙ノ折タル方ヲトリ右ノ手ニテ折ノ内ニ  
枚トリ座ナカラ紙ヲ置此トキトリタル紙ヲ次ヘヲシヤル  
也サテ件ノ紙ヲ兩手ニテ端ヲトリ宙ニテ横ニ折  
又四ニ折テ前ニ置硯箱ヲ引ナラシ水ヲ入墨ヲヤ  
ウヤクスリサテ筆ヲトリ硯ノ海ノ邊リニテ推クク

キ墨ヲ含マセテ箱ノ右ヘヨセカケ又墨ヲ取テ意  
ニマカセ摺リモトノ如ク墨ヲ置キ題ヲ懐中ヨリ  
出シ披キ見紙ノ間へ入レ紙ヲトリアゲ題ヲスグニ筆ヲ取  
テ題ヲカキツケ硯箱ノ端ヲイサカ紙ノ端ニカケテ  
前ニ置テトクト吟成テ左右ヲ見合セテカキトメ  
ヨ

效公宴今用私式

奉行會ノ亭ツトムベシ  
題者為師ノ人 讀師出座ノ中差之  
講師出座ノ中差之 発声沙汰ニ及バズ右ノ外給仕之人  
一兩輩催ス

催之事

題者題ヲシタ、メ奉行ノ詩ニ遣スベシ、奉行人數ヲ  
觸遣スベシ、詠進人ハ會日已前、隨師請點削懷  
ヲシタ、メ當日其亭ニ詣奉行ニ進ズ、モシ出座ノ人有  
所勞バ人ヲシテ懷紙ヲ進スベキナリ、

披講之式

先奉行刻限ヲ催ス、次ニ奉行懷紙ヲ文臺ニノセ  
退ク、コト色前人ヲシテ文臺  
ヲ影ノ前ニ置シム、次ニ各着座、次讀師着座、次講師  
着座、次奉行便宜之所ニ着座、次讀師取下懷紙等、  
次講師一々講畢テ退下ス、次讀師退ク、次列座下座

ヨリ退ク、次奉行懷紙ヲトリ影ノ傍ニヲク、載ナカラ文臺  
左右便宜ノ方  
ニ置、次奉行催饗、

當座ノ式

奉行題者、講師給仕ノ人一兩筆、

催次ノ式

奉行短尺ヲ題者ニ進ジ題ヲ認シム、題ヲ組童子  
影前ニ置ク、次奉行催座、次各着座、次給仕之人題  
ノ蓋ヲ取り、卷頭ヲ詠スベキ人ノ前ニ置、同ク侍座、次辭讓  
畢ニ題ノ蓋ヲ本所ヨリイサ、力引下シ置テ退ク、  
次出座ノ人次弟ニ題ヲトリ歸座ス、次給仕ノ人硯

紙ヲ取一々進ム紙ハ上座ノ前ニ置テ次各紙ヲ取り平座  
ニテ吟ズ次吟成テ點削ヲ請各隨師清書ノ短尺  
ヲ奉行ニ進ス

講之式 私次カ

先奉行短冊ヲ硯蓋ニノセ影ノ前ニ置ク次奉行  
座ヲ催ス次各著座次講師著座一々講畢テ退  
ク次各下座ヨリ退ク次奉行御食ヲ催ス

兼題ノ催

題者題ヲシクメ別清書奉行ニ遣ベシ奉行包紙ニ  
名ヲ書出座ノ會日ノ付札等ヲ認テ觸遣スベシ詠

進ノ人ハ師ニ隨テ添削ヲ請ヒ短尺ヲ清書シテ當  
日其亭ノニ入奉行ニ進ス

通題ノ催

奉行題并會日等ヲカキ出座ノ人名ヲ連書シテ  
フレ遣スベシ出座ノ人ハ當日入其亭短尺ヲ請テ清  
書シテ奉行ニスムベシ

會亭之催条々

會亭庭際ニヲヨブマテ掃除シ吟情ヲ慰セヨ  
鄙陋ノ風流ヲ用ルナカレ上座ノ方二人丸ノ影ヲ  
カケ香ヲ燒キ花ヲ校明ヲカケ結灯臺ヲ用ヒ

ヨ古體殊勝ノモノナリ  
文臺硯等ハ便宜ノ処ニ儲ケ置ケ  
吟席未始己前嬉戲勸益尤禁ム心緒惱乱ス  
レバ吟詠不佳ノ由古徳所訓ナリ郷食饌等ハ聊備  
徒然哥道修行ヲ以テ專トスベシ若花月祝義ノ  
會ニオイトハ志ヲ要シ奔走スベシ威儀ヲ乱ルナカ  
レモシ異體ノ人アラバ心ヲ付ベシ講畢テ不<sup>本ノマ</sup>処口之硯紙  
等ヲ別ニ儲テ側ニ置ケ  
右ノ条ハ先徳ノ式用意ノナリコノ外細々ノ  
會亭ノ所意ニ任スベシ

右和歌郷食私記者予在官之頃隨其事欲  
行其事一則習之一也曰志者求之昔之欲以道之  
意也慢不聽他見矣天外散人不可況也風竹  
書

此記者前左近衛權中將實紀朝臣之所撰也

あやの軒於の書村の方也

懐紙の書様

一法中の「季」をく「季」か「一」但官位は「」を  
れをむかく「」「」時「季」を「」む

一「季」は「懐紙」の「」字「」り「」れ「」下「」の「」を  
一字「」字「」同「」き「」入「」一「」飛「」鳥「」か「」ぎ「」り  
て「」上「」句「」は「」二「」行「」よ「」あ「」し「」き「」り「」て「」二「」行「」又「」字「」あ「」く  
但「」彼「」つ「」り「」も「」り「」付「」か「」ら「」る「」ん

一「二」さ「」より「」九「」さ「」よ「」り「」り「」て「」二「」行「」七「」字「」一「」づ「」り「」り  
み「」七「」み「」七「」と「」あ「」き「」て「」末「」の「」七「」字「」を「」あ「」げ「」て「」く「」き「」り「」  
し「」や「」但「」こ「」そ「」ま「」で「」一「」枚「」よ「」こ「」れ「」と「」く「」み「」そ「」七

首「」より「」紙「」を「」つ「」ぎ「」く「」く「」但「」七「」さ「」ぬ「」そ「」ち「」ど「」ま「」で「」  
二「」枚「」と「」ゆ「」え

一「十」さ「」より「」百「」さ「」子「」さ「」よ「」り「」り「」て「」も「」二「」行「」が「」き「」や「」  
紙「」の「」枚「」は「」百「」さ「」子「」さ「」よ「」り「」り「」て「」も「」二「」行「」が「」き「」や「」  
二「」枚「」と「」ゆ「」え

一俗人の懐紙「季」も「」か「」き「」季「」紙「」か「」ら「」る「」事「」  
半「」小「」し「」官「」位「」姓「」の「」も「」紙「」又「」季「」づ「」り「」を「」あ「」く  
同「」字「」を「」く「」め「」る「」事「」も「」あ「」り「」は「」ぬ「」さ「」た「」  
は「」ま「」よ「」り「」ぬ「」あ「」ら「」ず「」  
永「」享「」三「」年「」二「」月「」廿「」七「」日「」  
所「」望「」の「」次「」想「」  
也「」是「」子

Handwritten musical notation on the right page, consisting of several lines of notes and rests.

和歌披講譜

飛鳥井家初甲  
冷泉家最初二

甲  
きんう代を子世母やちよにちの  
商角

いとわとふりてこけ乃むをすて  
商 角 一宮 一

乙  
きんう代を子世母やちよの  
徴 商 一宮 一 徴角

さあきいのいとわと  
切續  
てこけのむをすて



右本者後雅儀より色字して進入人

天文八季小六月廿二日

千年院

法阿寺判

初重甲三糸をくせ

重丸

むめ乃を風そ<sup>一</sup>礼<sup>一</sup>也<sup>一</sup>も<sup>一</sup>ん<sup>一</sup>く<sup>一</sup>は<sup>一</sup>く<sup>一</sup>の<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>り<sup>一</sup>き<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。  
ゆき<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>。ち<sup>一</sup>る<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。あ<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>。

三童左

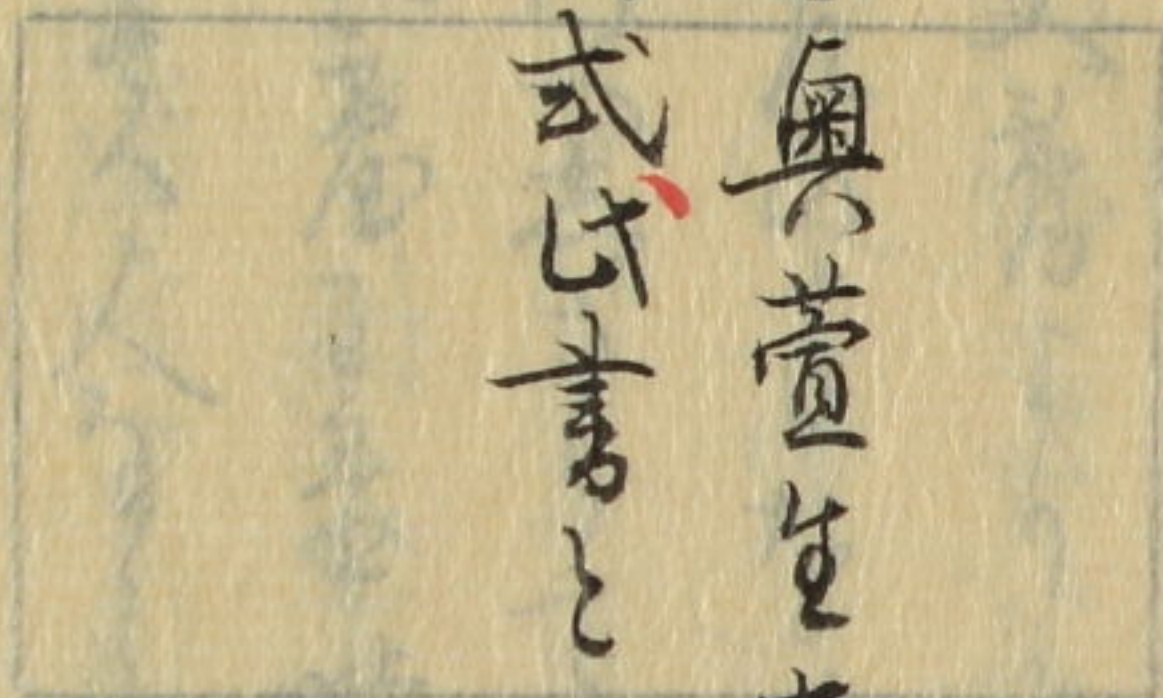
むめれ<sup>一</sup>は<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>。そ<sup>一</sup>き<sup>一</sup>し<sup>一</sup>も<sup>一</sup>見<sup>一</sup>く<sup>一</sup>は<sup>一</sup>さ<sup>一</sup>う<sup>一</sup>この<sup>一</sup>あ<sup>一</sup>り<sup>一</sup>き<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。  
ゆき<sup>一</sup>乃<sup>一</sup>ち<sup>一</sup>る<sup>一</sup>る<sup>一</sup>。あ<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>。

味海林監詰

泉家宗林  
藤田宗甲

披講の調子ハ其時乃調子よ<sup>一</sup>ら<sup>一</sup>ば<sup>一</sup>ニ<sup>一</sup>樂<sup>一</sup>刺<sup>一</sup>も<sup>一</sup>  
雅儀ハ在<sup>一</sup>仰<sup>一</sup>り<sup>一</sup>也<sup>一</sup>大<sup>一</sup>か<sup>一</sup>し<sup>一</sup>と<sup>一</sup>く<sup>一</sup>せ<sup>一</sup>ニ<sup>一</sup>重<sup>一</sup>も<sup>一</sup>よ<sup>一</sup>は<sup>一</sup>ふ<sup>一</sup>て<sup>一</sup>  
ハ<sup>一</sup>三<sup>一</sup>り<sup>一</sup>。も<sup>一</sup>で<sup>一</sup>。ま<sup>一</sup>う<sup>一</sup>て<sup>一</sup>得<sup>一</sup>者<sup>一</sup>。

是より奥萱生本工不<sup>一</sup>花<sup>一</sup>和<sup>一</sup>飲<sup>一</sup>會<sup>一</sup>席<sup>一</sup>作<sup>一</sup>法<sup>一</sup>懷<sup>一</sup>紙<sup>一</sup>  
短冊<sup>一</sup>出<sup>一</sup>式<sup>一</sup>は<sup>一</sup>書<sup>一</sup>と<sup>一</sup>摸<sup>一</sup>鏡<sup>一</sup>ノ<sup>一</sup>命<sup>一</sup>是<sup>一</sup>流<sup>一</sup>ハ<sup>一</sup>抄<sup>一</sup>紙<sup>一</sup>附<sup>一</sup>之<sup>一</sup>。



二番目  
但し  
祭戸  
口  
祭戸  
口

上

御書王

口下

人

下

日 数部一巻ありて、元元の人祭あり  
り者あり

講頌乃元カニコル也

講師 二番ニヨル

講頌、一講之

ハ讀師を後とて、其人後声をもたせし  
但一位の者人乃下之

御の懐紙むの引合よ入く座く出せ之  
或は左右の袂に入  
りて、其の用

懐紙を文巻よて至時、扉の座をむ之

懐紙よて、字一ら方か、一折返り、折

返り、懐紙を左の座をよて、て、右方乃よて

折返り、又巻よりも、て、いざ、て、二是、三是、あ

ゆき、右の座をよて、て、あ、て、あ、又、二、三、是

い、て、あ、て、あ、人の方、扉をむ、あ、て、あ、

懐紙文巻よて、時、ハ、文字、一、ら、を、い、の方、あ、あ、

大方、あ、あ、人、あ、あ、懐紙、あ、あ、あ、あ、あ、一、位

の、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

各懐紙ありまりて讀よても似合人々まじりし主  
柳公夫人の所懐紙一番よ文字のうらを墨乃うら  
なして重く後次乃うら下筆をうらまじり  
くまひて後又字乃うらをうら懐紙まじりす  
らちがよらう又まじりうを末乃うら方よら  
て又書るよらまじり

一書ふ後乃うら又書るの在二書ふは講所又書るの  
前よ乃うら座の府を不座まじり付之二番よ後声  
者座の此役を三人あがらあをまじりかこゆる  
しめし講所まじり懐紙を右の方よら膝

此下ふらうは押入ら抑よ至て下筆此人の懐紙  
より一枚宛又書るよかうを末座へ向くまじり  
いづも此夫人も我ををむひうらせめとのあり  
其日同詠<sup>ヨメル</sup>之首和歌よみて二書題をよらん  
三書ふ作者官位名書をよむは四書よらたよ  
五書は後ハ春日同題をよら作者斗儀を  
ては襖の座を<sup>よ</sup>め講所不座よ付て後後声詠吟  
まじり講所いひうらまじりおも不付五書七書同前  
詠吟を懐紙又書る<sup>字丸</sup>をうらうらて二ツよ打て  
字頭を末座へ向く板よら

尚存此短冊の中を、あり一箇よてゆい、を一板  
多代、講所取、又巻乃、く、く、水引、を、  
板乃、く、く、に、む、講所、お、は、も、あ、げ、く、は、讀  
何、た、の、も、そ、短冊、を、ま、つ、又、字、を、下、に、る、し、て  
引、ま、ひ、く、む、短冊、お、十、枚、も、な、ら、ば、あり、二、節  
よ、そ、因、登、し、講所、又、より、て、短冊、此、題、を、一、ま、ふ、名、案  
を、二、ま、ふ、お、成、三、ま、ふ、講、何、く、く、を、り、題、よ、て、く、く、  
題、を、く、く、一、度、讀、ぐ、は、お、讀、各、別、乃、題、る、く、く、  
き、び、く、お、讀、べ、し、ま、ぬ、お、懷、紙、お、る、く、く、書、聲、も、懷  
紙、此、を、<sup>換</sup>換、の、く、く、一、ま、つ、取、の、く、く、一、ま、つ、講、中、存

お、讀、し、て、は、く、ぬ、る、お、聲、お、せ、ぬ、その、之、短冊、詠、吟、  
を、て、講、所、短冊、を、お、て、懷、紙、乃、よ、お、記、お、文、字、が  
し、ら、是、も、下、座、よ、一、つ、ス、  
閉、り、申、お、讀、し、て、も、似、合、ん、人、て、仕、お、因、柳、口、傳、在、之、懷  
紙、同、短冊、裏、書、ま、ん、人、乃、役、之、有、口、傳、

右二行、之、之、扱、一、ま、つ、く、書、聲、も、懷  
紙、此、を、<sup>換</sup>換、の、く、く、一、ま、つ、取、の、く、く、一、ま、つ、講、中、存  
閉、り、申、お、讀、し、て、も、似、合、ん、人、て、仕、お、因、柳、口、傳、在、之、懷  
紙、同、短冊、裏、書、ま、ん、人、乃、役、之、有、口、傳、

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

精水奉納和歌百首之懷紙書様之中

春日陪 住吉 寶前

詠百首和歌

定家

志賀花園

河原や志くは花そのかきむ日此あうぬ白のふら風  
右二行で去之扱一巻く真の意趣出る古年号  
日付の之但意趣出るくとも

同奉納詠様之中

夏日游

八幡社壇

詠二首和歌

後二位雅俊

序

あもあも福やたといふ  
かろかりけりめね風の  
袖よりけりき

右一そのち〜三行三文字二その十そのと〜二行七文字  
きりぐし十ふそのと〜二行七文字よ必出る中付りき

一その時大方筆取書ける

詠水石歴幾年

和歌

正二位雅俊

岩をくは多き農

志良以定具利多免

傳逸奴至多千世也宿

濃伴毛見津

右方の何れ三行五字也御家此京まゝ人〜でいふ〜  
か〜

五その和歌懐紙二枚續和歌簿書〜

三首摺紙〜で付二枚〜三その二首紙同分かく

七首二枚もり一三首何れも二行七字之十首も同之  
枚つぐ

一三首懐紙三行三首

秋日詠草花露和歌

榮種

志願やの志はた歩重

多分麻野之宇地尔

子種遠花毛右係連天

也佐久

右懐紙何れも奥のあり次なるべし一三首は時一行

和奥をアアシの

女之懐紙書様

女房は懐紙の紙は不式は落やうれかたもより由合  
るどつていふもやうのかさみよりば引合と一重なり  
しそと金根とありて書五首十首は時  
に一枚ありてねの題もあつぎと飛鳥井雅俊傳之  
又竟者やいふも落くよ下繪紙くも但平生六  
引合よと書るなり

花れいろのつり

あきおのり

よかりの 伝多

ありたりあ

つゝお我多た

こらとよあ

ゆるちる免せ

わらよの

二たのり

たのり

右一と二と三ともしのり

色紙の定家白小倉北山庄の名紙を始とする

寸法さびあてもなし小倉北山紙たけふ寸を守

八分と云傳へ傳れを世る布せし小倉北山紙

をうらよ大方の大小ありあけ四寸五分幅四寸一分

りりし定より定家白のりも色紙名目

たれども色紙定家の短冊の世より

神祇懐紙の作のり

春日陪熱田社壇詠三和奇

左大佐冬良

大さめけるりし又何日同位社願詠何そ和

歌るがごとく一田孝有無いつのり

題

は通之

禁中御會懐紙



夏日同詠竹野遊年

應。一 製和歌

推大細之 類ラクハ姓アルシ 推房

女院

無教和奇

又ハ尚流ハ三首ニ行キテ次乃々々々此  
ノ形多弁也ハ三首目ノ第一行クテ次乃々々々  
ノ形多々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
又ハ尚流ハ三首ニ行キテ次乃々々々々々々々  
ノ形多々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

女房懐紙

名ををる事也但之人よりとあり何内親と家  
誰か母誰か女又勸女通女るども是懐紙也  
一也此ハハハハハハハハハハハハハハハハハハハハ

むけえよきあはる  
くのびく十そ上ハ二行  
くのびく十そ上ハ二行

なげきもいませ  
くのびく十そ上ハ二行  
くのびく十そ上ハ二行

雪いりつ  
懐紙いら出はり

兼應二年九月廿九日會。元和六年七月十三日和  
 今月並るればけりきこ入よききに次夫不同と日記  
 よもろく時よるべし

懐紙ヨメルサンシユヤマトウタの事  
 春日同詠三首和歌

おれ讀振ハ又七又七七七句成切や。喜声甲乙あり  
 ぬ目そや。一程は傳あり  
 講沙ノ故實とく。をき人の名案とびきくその  
 とよむべし。おん然が懐中いさや。一きよのあゆ面  
 よ一投こめはちして。裏のかさぬいさや。さるる季と

あつた  
 ちの  
 ちの  
 ちの

題と名との牛や。りるあゆ又又そ十そと如くまや  
 成終してあゆ。その時裏志まのぬ。又そ女と申  
 将か將か細さるる。けふとて讀くそわの必  
 お名あづべし。其をよむべし。又後如女さるる  
 讀くゆの一程くゆ

ヶカケ短尺との題と名とあゆよ。ヶに流テイてカケの  
 又いあゆに打メ付テ出さるる。  
 女短冊書振く事

寄石恋	こし神の志あひいよんぬ神の石の 人しそ志くぬくまされる事	又影るくは是 一字下ケよそ
-----	---------------------------------	------------------

題名	各名
----	----

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

ち〜し〜き〜る  
あ〜ぬ  
あ〜ぬ  
あ〜ぬ  
あ〜ぬ

あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

伊勢の海は釣もろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

小短冊長九寸七有

梅の花  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

懐紙三首出題

初 秋夕月 待恋 又 月出山 見恋 松風

五首出題

未何月何日

又出題

寄雲恋  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ  
あまのこゝろ

神楽の夜

梅薫風

寄神祝

右五首ハ一紙ヨリ出テ又二首三首ハ短尺ニ有リ又

是ハ五首出題トハ別書ニ  
詩タニサクニ  
哥ヲカクニ  
ツマカ

寺ニテ短冊アル時  
詩ノ題ニテ詩ノ  
短冊ニ哥ヲ讀ニハ  
如此カクナリ

十首十五字の如く五首題

兼題短冊に書紙一書

寄道統

来十日

右如式短尺一枚中紙を短冊に打む紙一枚をきくについで

三首題同短尺書紙のり

初秋

同月

安斎

秋風

七夕

忠志

右短冊を三ツよ打て紙を三ツよ打てついで来何月とてある

假名影出題

かえ

ふりの

むし

二月日

さう

さう

あつる人

ゆき出題たるが、そのまゝのまゝ多かあるが

短冊包紙の上へ来何月とて書紙に打む紙一枚

切紙を打むその人の名又いかに書紙に

第一のまゝ

尚書短冊に書紙

年号何月何日 何名 尚書 法樂 何月何日 何名 尚書 法樂 何月何日 何名 尚書 法樂

懐巾（うろ）半（り）

あとの懐紙（うろ）は、（うろ）裏の通をより、  
二三寸ほどのけして半人

花おふよ短冊を分て贈る半

懐紙ハ短冊も横よおてそれを返さすよ文に  
をく振よこよおて花の下の方れ枝を結び半短  
尺本末此切目の方上をまるまぐく人がさぐり枝を又  
きくすずしてありそ分半も人

あつ日  
るさる  
かきた  
短冊  
るる

任者法樂  
末十三日

右のやうきそよ人の名をわかずを（うろ）振  
れをうそそおて分るも、お分漬てけ方かきし時ハ  
け方れ紙よてつと出

あつ下各  
半をま  
て形との  
方へき

名系

兼日の匙を短冊よちて贈るよは是（うろ）磯仙（うろ）

夕トハ

花有  
赤色

末廿日

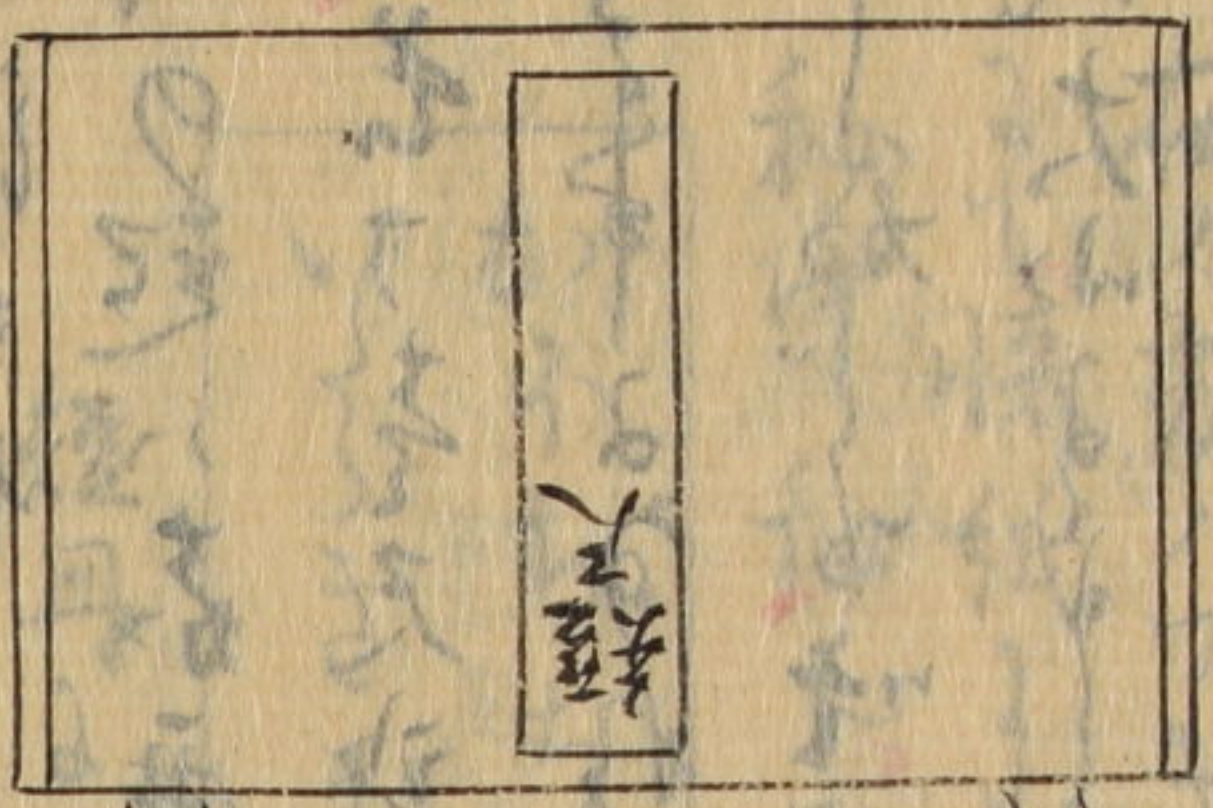
神者  
と恋  
末廿日

めみ或いおそすそす首を匙よそ一板よそ一板よ  
二ふりよ三ふりよとてあ



紙

書



講

講

講

講

講

師



大

### 硯文書

文章のこれ右の紙又の短尺を水引の  
 ひきいの下にむきびて入也短尺の上をつまみお  
 こふす扱もあつぱら扱ふゆいて出さか何  
 一両中扱ゆいてをくも床か扱え合てを之机  
 よむひてをくやも也  
 此序は押扱のりある中より出るふは乃と他  
 中より治められおよは申出るくより床  
 扱めおよおらん中より治められ置床  
 一年一位扱ふ仰せらる用意の中扱め

細い紙に押板を押しつけておく。それはおまけの  
さねどもおのゝ孫子も押しつけておく。それはおまけの  
菟角も押しつけておく。それはおまけの  
神樂隨筆云、御影供の會に押板を左右に何枚置  
て云う。此板のししズ、哥ヲ書テ押ス板ヲ云カ可考。

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '地下' and '用ル'.*

實陰公御説山長老話

地下に用ル短冊ハ奉書一枚ヲ堅ハツ切メ上下ニ白卦ヲ  
引書ベシ。お曇紙ハ不苦カニテモ繪紙アル紙不<sub>レ</sub>用人  
ノ許ニテ不<sub>レ</sub>用アリテ、自詠ヲ短尺ニ書テアラバ亭主ニ  
引サセテ可書。是故實之。又常ニ自詠ヲ書テ人  
ニミスル<sub>レ</sub>アラハ、詠草ノ札ニ二行七字ニ書テ見スヘシ  
短冊ノ初ハ古奇合ノ時造物ノ洲濱ニ金銀ニテ鳥  
ヲ造リ、其口中ニ紙ヲ芦ノ葉ナリニ切テソレニ絡ム。哥  
ヲ書カサ子テフクマセテ出ス。是ヲアミテト云。是短  
冊ノ初ハ寸法シカト不定。先ハ一寸五分許之。世上ニテ



頓阿時代ヨリ初ルト云傳ハ其時代ヨリ專ラ是ニ  
奇書タル故シ  
色紙ハ古紙ヲイロク花形ニ切テソレニ奇ヲ書タルヨ  
リ初レリ寸法杯性ナラズマツハ三行七字或ハ三行  
ニモ書其外チラシ杯サマズアリ

○女房の三首懐紙一条禪閣御傳  
アキキセ山も空もむ いてくふたりのひく  
水無形川にけしるはれと なるらんらん月をわ  
なふ杉のいさむ 秋も花もふけわ

きこやいふらの空ある  
風もよもよもよする  
なほいあり  
岩もよもよもよする  
くしきそひしきやねん  
ゆの中山

あさちあなうきけり  
むれきふをたけり  
そてれしははゆ  
あさらんあはれに  
けりあはれきくふ  
あつしきくふ

女房之首懐紙の書振るり五首七首ハ紙を込テ如紙  
書るり又懐紙ニ題名等カズ人又人ニ点ナド取時題ラ  
書ルリチラシ書ハ文字ノ教書ヤウサタマラズノ但大カ

夕ハ此分ニテ人墨ノ沢不モ可クマラズ人

武陵雜筆 自萬治至  
同二年

短冊ハ為世卿ノ比ヨリ始ル白短冊ナリ淨弁慶運  
ナド短冊ノ始ナリ色紙ハ貫之ヨリ始ル灰屋色紙ハ後  
成ノ歌ナリ

宸翰ノ短冊伏見院ヨリアレ也寶具ハ後醍醐ヲ始トス  
大方短冊ニテハナク書ツケタル卷物ヲ切タルモノ  
ナリ題ハ飛鳥井家ノ手跡ナリ白短冊或ハ雲紙モ  
アリ

天子ノ短冊ニハ御名ナシ阿茶丸ナドカヘテノ名ハアル  
物ナリ

玉石抄 武庫縣神學生太田道雄

貫之時代小色紙 幅三寸七分 高四寸

後陽成院御好金木林宗和作進ノ大色紙寸法太小  
幅一尺三寸 長一尺二寸 幅一尺二寸三分 長七寸 幅八寸九  
分 長一尺二寸三分 幅一尺一寸一分 長八寸四分 幅八寸七分  
長一尺

普通色紙 幅六寸二分 長七寸五分 幅六寸 長六寸一分

小短冊幅一寸三分三厘  
長六寸一分半

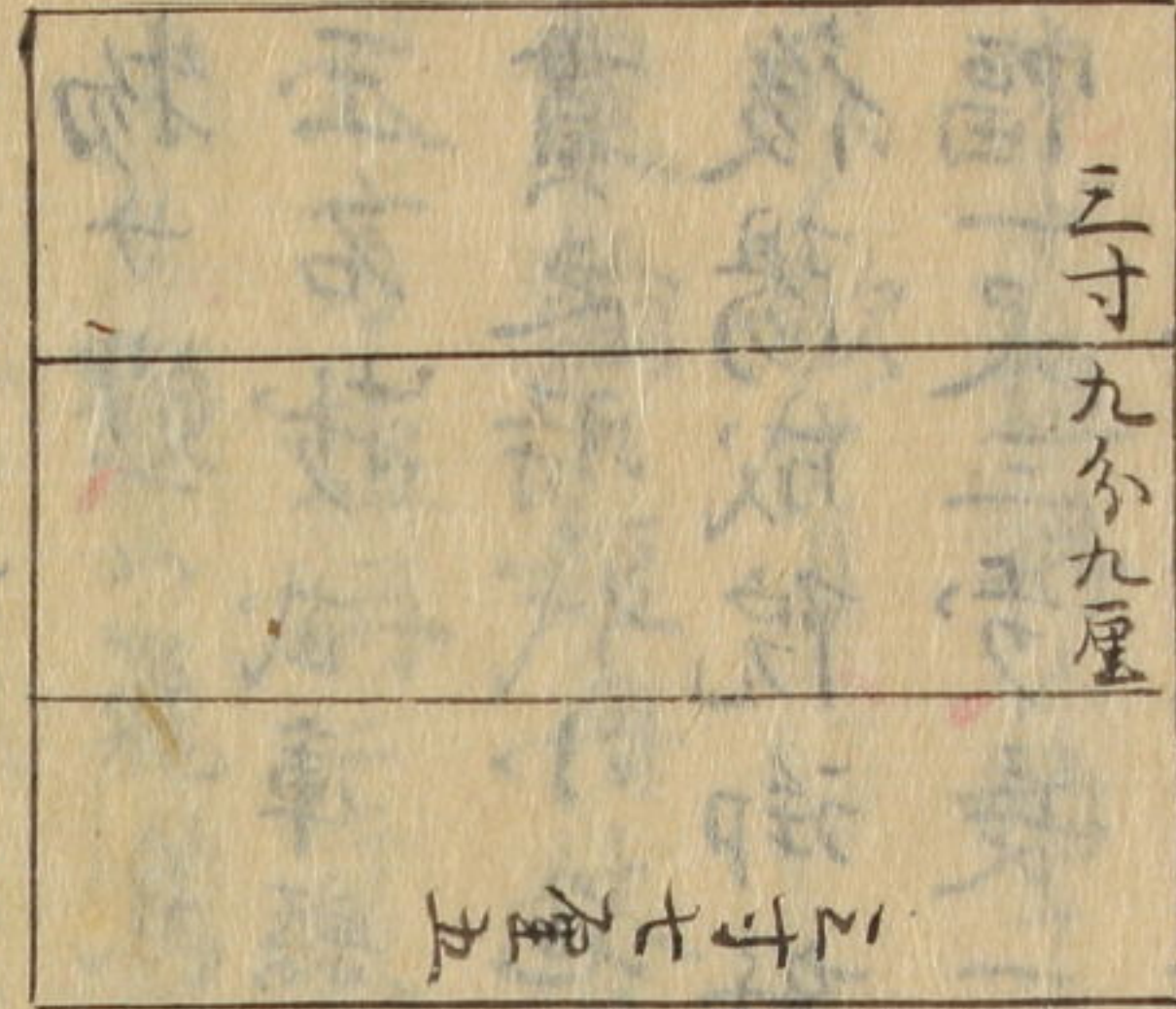
一尺二寸三分

常ノ短冊一枚ヲ圖ノ  
如ク三ツ切ニスレバ小短  
冊三枚ニナルニ枚ハ全シ  
一枚ハ堅ニニツニナル

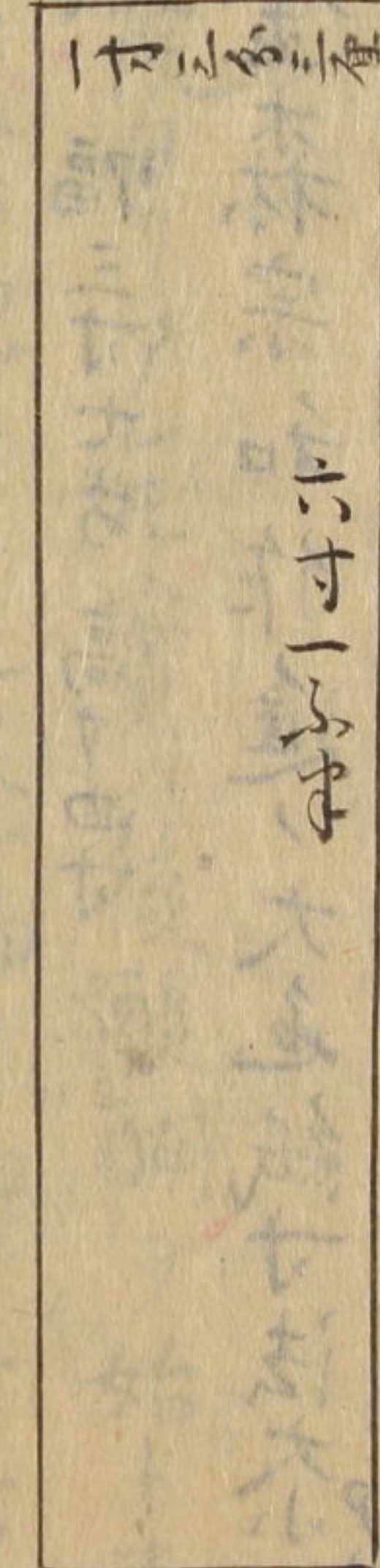
小短冊三枚ヲモツテ小色紙二枚ヲ作ルニ  
小短冊一枚半ニテ名紙一枚ニナルナリ

六寸一ふち

上



下



圖ノ通ノ寸法ノ色紙ハ長高スキ幅セマリタレバ或人作  
意シテ高サノ内二分九厘ヲ剪取テ幅ノ三寸七厘五ニ  
加フレバ高サ三寸七分幅三寸三歩六厘五トナル此通ニ作り  
テ見分ヨロシ又常ノ短冊三枚ニテ中色紙二枚ヲ作ル是  
ハ短冊三枚ヲ切テソレヲ三枚双ベタルモノナリ高サ六寸一  
分半幅六寸トナルヲ幅ヨリ一分切トリテソレヲ高サハ加  
フレバ高サ六寸二分半幅五寸九ぶトナリテ恰好ヨシ何レモ  
同シ積數ニテ恰好ノヨキヤウニモクロモタルモノナリ

同治十三年九月七日

右和詩會式法一卷者寓于近江国蒲生郡  
八幡區借得西川吉外秘藏之本臨摸畢  
安政四丙辰歲九月七日 渡邊常品

右和詩會式法一卷者寓于近江国蒲生郡  
八幡區借得西川吉外秘藏之本臨摸畢  
安政四丙辰歲九月七日 渡邊常品

此書乃和詩會式法一卷者寓于近江国蒲生郡  
八幡區借得西川吉外秘藏之本臨摸畢  
安政四丙辰歲九月七日 渡邊常品

墨附七十三張也

安永四年丙辰歲六月廿五日 越前守  
八割圖計長西川吉八煉齋之本國對畢  
古味齋會左志一養者寓于並云國前主味

五みねてふは極秘切紙お傳い事

一五みねり内亦あはか乃五みを角は字之内乃五みね  
隅乃字に形形と隠るるの遠いあてふその文字  
隠るるあり隅のてふをくふ角を表り形きて  
かくれし事形きりより傳授といあはを眼見  
五みねてふといつきのうあはを眼見  
五坂乃昇れ山か助神さききて  
寒く形は衣のあはを唇して  
名やまとい海は神は形りん  
是あのう神を云これ山風あふあ字をて  
るるといい多ぬ形形きりものつらあ文字は  
あてあはを隅といひあは隅のてあはり實主  
は格あはをうりて文字をいひ形してあ  
乃ていしよ形ぬりあは

是を橋まゝ舟をとりめれや  
 舟よりこゝろの舟のあり隔のて  
 下紅糸あつちの山の夕時ぬき  
 今らんそ琴りーあまを志まは  
 此いつまもふ方まをて入て  
 宿客の所も隅のてあまを  
 入れり

冨の山風よ  
 白雪よ  
 神垣よ  
 夕時ぬよ  
 まるしよ

此は宿のありふらりるる隅のて  
 是の橋まゝ舟をとりめれや  
 舟よりこゝろの舟のあり隔のて  
 下紅糸あつちの山の夕時ぬき  
 今らんそ琴りーあまを志まは  
 此いつまもふ方まをて入て  
 宿客の所も隅のてあまを  
 入れり

